



參考資料 災害復旧・復興經費

1 災害関連予算一覧表（歳出）

(1)平成 30 年度

①一般会計

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般財源	
専決処分 (7/30)	13,748,549	3,849,026	避難所設置運営経費 753,933
			災害見舞金支給経費 476,250
			生活必需品給付経費 222,000
			被災住宅等環境整備支援経費 150,040
			被災住宅応急修理事業 876,000
			応急仮設住宅設置経費 280,000
			災害弔慰金等給付事業 263,750
			災害援護資金貸付事業 3,500,000
			災害ボランティアセンター運営経費 187,136
			災害廃棄物処理経費 1,659,302
			中小企業融資事業 511,600
			市営住宅修繕経費 450,000
			小・中学校就学援助事業 165,690
			庁舎災害復旧事業 656,858
			市営住宅災害復旧事業 426,275
			学校施設災害復旧事業 2,792,160
専決処分 (8/7)	952,500	952,500	災害見舞金支給経費 952,500
専決処分 (8/28)	3,201,000	0	災害廃棄物処理経費 3,201,000
9 月補正予算	21,509,113	1,301,513	避難所設置運営経費 391,970
			災害見舞金支給経費 439,450
			災害復興基金積立金 300,732
			災害廃棄物処理経費 7,756,556
			障がい者福祉施設等災害復旧費助成事業 308,932
			民間保育所災害復旧費助成事業 176,782
			公立保育所災害復旧事業 274,429
			農業施設災害復旧事業 7,102,190
			農業施設災害復旧費助成事業 1,113,050
			林地災害復旧事業 575,650
			道路橋りょう災害復旧事業 1,639,900
			公園施設災害復旧事業 284,338
			消防施設災害復旧事業 259,540
			生涯学習施設災害復旧事業 396,675
12 月補正予算	3,609,937	700,359	災害救助関係経費 164,047
			災害ボランティアセンター運営経費 62,403
			老人福祉施設設備災害復旧費助成事業 152,625
			公立保育所災害復旧事業 73,764
			農業施設災害復旧費助成事業 2,026,145
			道路橋りょう災害復旧事業 645,800
			消防施設災害復旧事業 128,944

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般財源	
2月補正予算	△6,874,267	425,873	避難所設置運営経費 △ 122,759 災害弔慰金等給付事業 △ 103,750 災害援護資金貸付事業 △ 3,091,200 被災住宅応急修理事業 △ 233,600 災害復興基金積立金 1,171,479 災害廃棄物処理経費 △ 2,898,231 真備地区産業復興推進事業 103,832 市営住宅修繕経費 △ 420,000 庁舎災害復旧事業 △ 320,000 児童厚生施設災害復旧事業 153,230 隣保館施設災害復旧事業 125,000 農業施設災害復旧事業 △ 2,350,000 学校施設災害復旧事業 1,016,110
合計	36,146,832	7,229,271	

②国民健康保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
12月補正予算	5,899	5,899	災害対応にかかる人件費等 5,899
2月補正予算	235,290	0	医療費の自己負担金減免 235,290
合計	241,189	5,899	

③介護保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
12月補正予算	2,914	2,914	災害対応にかかる人件費等 2,914
合計	2,914	2,914	

④下水道事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
9月補正予算	445,983	50,783	真備浄化センター等災害復旧事業 445,983
12月補正予算	4,439	4,439	災害対応にかかる人件費等 4,439
2月補正予算	△ 104,300	△ 5,000	真備浄化センター等災害復旧事業 △ 104,300
合計	346,122	50,222	

⑤農業集落排水事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
9月補正予算	30,067	67	箭田川南浄化センター等災害復旧事業 30,067
合計	30,067	67	

⑥水道事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
9月補正予算	121,505	0	岡山県広域水道企業団受水費
			真備町有井地区送水管仮設工事
			配水管等修繕費
12月補正予算	28,878	5,857	災害対応にかかる人件費等
2月補正予算	164,030	0	真備浄水場復旧関連工事（4件）
			被災資産除却費
			真備浄水場運転管理業務委託料
合計	314,413	5,857	

(2)令和元年度

①一般会計

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般財源	
当初予算	13,691,008	32,227	被災住宅応急修理事業
			総合防災情報システム構築事業
			中長期派遣職員受入経費
			地域集会所災害復旧費助成事業
			被災者見守り・相談支援等事業
			災害廃棄物処理経費
			真備緊急治水対策事業
			被災高齢者向け住宅再建支援事業
			災害公営住宅整備事業
			被災児童生徒通学支援事業
			農業施設災害復旧事業
			学校施設災害復旧事業
6月補正予算	3,646,280	56,159	災害援護資金貸付事業
			真備緊急治水対策事業
			避難経路等確保事業
			災害公営住宅整備事業
			市営住宅災害復旧事業
			生涯学習施設災害復旧事業
9月補正予算	2,641,014	20,694	災害廃棄物処理経費
			社会福祉施設災害復旧事業
			文化施設災害復旧事業
			道路橋りょう災害復旧事業
			学校施設災害復旧事業
12月補正予算	107,200	2,639	災害弔慰金等給付事業
			真備緊急治水対策事業
2月補正予算	△ 450,074	△ 140,543	被災住宅応急修理事業
			災害復興基金積立金
			地域集会所災害復旧費助成事業
			災害廃棄物処理経費
			真備緊急治水対策事業
			避難経路等確保事業
			被災高齢者向け住宅再建支援事業
			災害公営住宅整備事業
			被災児童生徒通学支援事業
			道路橋りょう災害復旧事業
			学校施設災害復旧事業
合計	19,635,428	△ 28,824	

②国民健康保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
2月補正予算	404,988	0	医療費の自己負担金減免 404,988
合計	404,988	0	

③介護保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
2月補正予算	143,620	5,984	介護サービス費の自己負担金減免 143,620
合計	143,620	5,984	

④下水道事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
当初予算	1,084,500	0	真備浄化センター等災害復旧事業 1,084,500
合計	1,084,500	0	

⑤水道事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
当初予算	3,987	0	真備町有井地内配水管改良工事 3,000
2月補正予算	△ 987	0	真備町有井地内配水管改良工事 △ 987
合計	3,000	0	

(3)令和2年度

①一般会計

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般財源	
当初予算	4,219,003	161,823	地域集会所災害復旧費助成事業 94,000
			被災者見守り・相談支援等事業 183,394
			中小企業融資事業 101,508
			真備緊急治水対策事業 499,903
			避難経路等確保事業 108,500
			被災高齢者向け住宅再建支援事業 194,000
			被災児童生徒通学支援事業 128,368
			社会福祉施設災害復旧事業 642,528
			公立保育所災害復旧事業 425,615
			文化施設災害復旧事業 978,700
			道路橋りょう災害復旧事業 182,619
6月補正予算	332,645	25,807	生涯学習施設災害復旧事業 442,434
			復興防災公園（仮称）整備事業 189,265
			避難経路等確保事業 44,000
			市営住宅災害復旧事業 48,000
合計	4,551,648	187,630	体育施設災害復旧事業 30,000

②国民健康保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
当初予算	128,000	0	医療費の自己負担金減免（令和2年6月まで）128,000
合計	128,000	0	

③介護保険事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
当初予算	48,168	6,021	介護サービス費の自己負担金減免(令和2年6月まで) 48,168
合計	48,168	6,021	

④水道事業

(単位：千円)

区分	予算額		主なもの
	歳出総額	一般会計繰入金	
当初予算	65,100	0	真備町有井地内送水管改良工事 62,000
合計	65,100	0	

2 災害関連予算一覧表（財源内訳）

①一般会計

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他※1	一般財源
平成30年度	専決処分(7/30)	13,748,549	2,098,812	2,908,911	4,891,800	0	3,849,026
	専決処分(8/7)	952,500	0	0	0	0	952,500
	専決処分(8/28)	3,201,000	1,600,500	0	1,600,500	0	0
	9月補正予算	21,509,113	9,535,421	1,768,866	8,465,100	438,213	1,301,513
	12月補正予算	3,609,937	395,861	1,923,917	589,800	0	700,359
	2月補正予算	△ 6,874,267	△ 3,269,498	△ 968,346	△ 4,456,900	1,394,604	425,873
令和元年度	当初予算	13,691,008	6,464,458	262,057	5,632,700	1,299,566	32,227
	6月補正予算	3,646,280	2,203,835	2,886	1,280,400	103,000	56,159
	9月補正予算	2,641,014	649,145	26,175	1,890,000	55,000	20,694
	12月補正予算	107,200	0	92,561	12,000	0	2,639
	2月補正予算	△ 450,074	△ 731,626	△ 70,655	152,600	340,150	△140,543
令和2年度	当初予算	4,219,003	565,017	162,190	2,293,400	1,036,573	161,823
	6月補正予算	332,645	100,238	0	206,600	0	25,807
合計		60,339,908	19,612,163	6,108,562	22,558,000	4,667,106	7,388,077

※1・・・分担金 132,481 財産売払収入 31,300 寄附金 521,440 基金繰入金（災害復興基金・

地域振興基金） 1,758,000 災害廃棄物処理受託事業収入 119,456

モーターボート競走事業収入 2,000,000 仮施設整備支援事業助成金 103,832 雑入 597

②国民健康保険事業

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	基金繰入金等	一般会計繰入金
平成 30 年度	12 月補正予算	5,899	0	0	0	0	5,899
	2 月補正予算	235,290	47,058	188,232	0	0	0
令和元年度 2 月補正予算		404,988	0	272,607	0	132,381	
令和 2 年度当初予算		128,000	0	102,400	0	25,600	0
合計		774,177	47,058	563,239	0	157,981	5,899

③介護保険事業

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	保険料	一般会計繰入金
平成 30 年度 12 月補正予算		2,914	0	0	0	0	2,914
令和元年度 2 月補正予算		143,620	107,476	5,984	0	24,176	5,984
令和 2 年度当初予算		48,168	11,801	6,021	0	24,325	6,021
合計		194,702	119,277	12,005	0	48,501	14,919

④下水道事業

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般会計繰入金
平成 30 年度	9 月補正予算	445,983	250,000	0	145,200	0	50,783
	12 月補正予算	4,439	0	0	0	0	4,439
	2 月補正予算	△ 104,300	△ 68,300	0	△ 31,000	0	△ 5,000
令和元年当初予算		1,084,500	723,000	0	361,500	0	0
合計		1,430,622	904,700	0	475,700	0	50,222

⑤農業集落排水事業

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般会計繰入金
平成 30 年度 9 月補正予算		30,067	0	0	30,000	0	67
合計		30,067	0	0	30,000	0	67

⑥水道事業

(単位：千円)

区分		歳出総額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	自己財源	一般会計繰入金
平成 30 年度	9 月補正予算	121,505	0	0	0	121,505	0
	12 月補正予算	28,878	0	0	0	23,021	5,857
	2 月補正予算	164,030	48,161	0	0	115,869	0
令和 元 年度	当初予算	3,987	3,142	0	0	845	0
	2 月補正予算	△ 987	△ 1,497	0	0	510	0
令和 2 年度当初予算		65,100	1,556	0	0	63,544	0
合計		382,513	51,362	0	0	325,294	5,857

3 災害関連経費一覧（総括）

①一般会計

（単位：千円）

	平成 30 年 度決算額	財源内訳		令和元年 度決算額	財源内訳		令和 2 年 度予算額	財源内訳	
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源
総務費関連	2,088,068	1,607,736	480,332	1,489,243	1,239,779	249,464	276,223	155,073	121,150
				132,386	132,300	86	74,693	55,100	19,593
民生費関連	2,656,797	983,794	1,673,003	948,247	754,240	194,007	2,928,483	2,889,671	38,812
（災害救助費以外）				200,040	159,197	40,843	660,800	633,277	27,523
民生費関連	2,278,377	2,095,890	182,487	165,644	153,607	12,037	59,300	54,647	4,653
（災害救助費）				12,250	12,250	0	5,256	5,256	0
衛生費関連	7,403,640	7,303,881	99,759	8,613,348	8,582,262	31,086	1,957,543	1,956,818	725
				677,810	670,125	7,685	1,957,436	1,956,818	618
労働費関連	2,376	2,300	76						
農林水産業 費関連	2,617,837	1,612,190	1,005,647	2,195,613	1,462,771	732,842	51,712	10,116	41,596
				2,112,090	1,428,719	683,371	46,700	10,000	36,700
商工費関連	171,827	50,436	121,391	70,311	75	70,236	143,128	141,000	2,128
				57,876	0	57,876	0	0	0
土木費関連	1,200,206	533,548	666,658	1,043,602	676,270	367,332	4,637,069	4,555,717	81,352
				553,473	406,087	147,386	3,329,178	3,307,902	21,276
消防費関連	165,250	144,310	20,940	210,437	209,500	937			
				210,437	209,500	937			
教育費関連	1,997,641	770,700	1,226,941	3,049,056	2,868,697	180,359	603,904	592,929	10,975
				1,183,798	575,463	608,335	31,651	23,600	8,051
小計	20,582,019	15,104,785	5,477,234	17,785,501	15,947,201	1,838,300	10,657,362	10,355,971	301,391
				5,140,160	3,593,641	1,546,519	6,105,714	5,991,953	113,761

②特別会計・企業会計

（単位：千円）

	平成 30 年 度決算額	財源内訳		令和元年 度決算額	財源内訳		令和 2 年 度予算額	財源内訳	
		特定財源	一般会計 繰入金		特定財源	一般会計 繰入金		特定財源	一般会計 繰入金
国民健康保 険事業	266,155	261,143	5,012	400,924	400,924	0	128,000	128,000	0
				0	0	0			
介護保険事 業	88,617	85,363	3,254	143,158	137,219	5,939	48,168	42,147	6,021
				0	0	0			
下水道事業	262,631	211,053	51,578	1,071,199	1,071,089	110			
				51,244	51,134	110			
農業集落排 水事業	26,386	26,300	86						
水道事業	187,055	181,254	5,801	5,227	5,227	0	65,100	65,100	0
				5,227	5,227	0			
小計	830,844	765,113	65,731	1,620,508	1,614,459	6,049	241,268	235,247	6,021
				56,471	56,361	110			

③一般会計＋特別会計・企業会計

(単位：千円)

	平成 30 年 度決算額	財源内訳		令和元年 度決算額	財源内訳		令和 2 年 度予算額	財源内訳	
		特定財源	一般財源※ 1		特定財源	一般財源※ 1		特定財源	一般財源※ 1
合計	21,412,863	15,869,898	5,542,965	19,406,009	17,561,660	1,844,349	10,898,630	10,591,218	307,412
				5,196,631	3,650,002	1,546,629	6,105,714	5,991,953	113,761

※ 1・・・特別会計，企業会計においては，一般会計繰入金

④減免・特例措置分

(単位：千円)

	平成 30 年 度決算額	補填財源内訳		令和元年 度決算額	補填財源内訳		令和 2 年 度予算額	補填財源内訳	
		特定財源	一般財源※ 1		特定財源	一般財源※ 1		特定財源	一般財源※ 1
一般会計 市 県 民 税ほか	755,450	38,458	716,992	405,544	0	405,544	361,178	0	361,178
特別会計・ 企業会計 保険料， 使用料ほ か	611,300	421,956	189,344	125,992	92,643	33,349	7,539	0	7,539
小 計	1,366,750	460,444	906,306	531,536	92,643	438,893	368,717	0	368,717

※ 1・・・特別会計，企業会計においては，保険料或使用料等の自己財源

4 災害関連経費一覧

①総務費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
被災住宅等環境整備支援経費	26,763	0	26,763							災害対応に要した土のう、スコップ、長靴など
災害ボランティアセンター運営経費	183,366	0	183,366							災害ボランティアセンターの運営
被災児童生徒通学支援事業	5,694	0	5,694	556	0	556	203	0	203	スクールバス運行にあたり、本庁舎ロビーでの乗降時の警備
平成30年7月豪雨災害追悼式開催等経費				7,625	0	7,625	2,156	0	2,156	追悼式の開催及び平成30年7月豪雨災害の碑の設置
公文書修復経費	799	0	799	1,683	0	1,683	1,251	0	1,251	公文書の修復
中長期派遣職員受入経費	84,082	984	83,098	144,736	0	144,736	59,895	0	59,895	全国から応援職員派遣を受け入れ
市有財産管理経費	3,933	0	3,933							崩落した市有林の土砂撤去
災害復興基金積立金	1,482,135	1,482,135	0	1,034,530	1,034,503	27				全国から寄せられた支援金等を原資として災害復興基金を創設
コールセンター運営事業	2,579	0	2,579							支援制度等の問い合わせに対するコールセンターの増員
被災者生活再建支援経費	23,309	217	23,092	25,111	380	24,731	24,775	273	24,502	被災者に対して広報紙や地域の情報等を送付
地域集会所災害復旧費助成事業				61,459	496	60,963	94,000	94,000	0	補助率を5/6に嵩上げして助成
洪水・土砂災害ハザードマップ作成事業				3,265	0	3,265	12,392	0	12,392	全戸に配布
コミュニティFMラジオ難聴地域解消事業							7,177	0	7,177	FMラジオ電波送信用中継局の整備費の一部を助成
災害応急対策事業費	27,525	0	27,525	5,638	0	5,638	13,550	0	13,550	台風等に備えて仮設ポンプ等を設置
総合防災情報システム構築事業				71,056	71,000	56	55,124	55,100	24	災害情報を一元管理し、避難情報発令等を支援するためのシステム構築
庁舎災害復旧事業費	198,101	74,700	123,401	128,135	128,100	35				真備支所、真備保健福祉会館の復旧
防災対策施設災害復旧事業	37,421	37,400	21	5,449	5,300	149	5,700	5,700	0	緊急情報提供無線システムの復旧
市民交流施設災害復旧事業	12,361	12,300	61							コミュニティ広場(3カ所)の復旧
総務費関連事業 計	2,088,068	1,607,736	480,332	1,489,243	1,239,779	249,464	276,223	155,073	121,150	

②民生費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
緊急援護資金貸付事業	20,000	0	20,000							災害に伴い緊急に出費が必要な方に対する貸付金
被災者見守り・相談支援等事業	49,183	49,183	0	145,636	145,636	0	183,394	183,394	0	仮設住宅等の入居者に対する見守りや相談支援、住民同士の交流機会の提供等
障がい者福祉施設災害復旧費助成事業	36,959	36,959	0	25,570	25,528	42				障がい者福祉施設の施設や設備等の復旧費に対する一部助成
障がい福祉サービス等自己負担金減免	3,315	2,745	570	326	240	86				障がい福祉サービス等の利用に伴う自己負担分の減免
老人福祉施設災害復旧費助成事業	192,795	192,761	34	14,268	14,268	0				老人福祉施設の施設や設備等の復旧費に対する一部助成
保育所等代替入所・緊急一時預かり事業	21,340	5,918	15,422							被災児童の他保育所等への代替入所や一時預かりを実施
保育総務関係経費	80	0	80							被災した保育所等に対する「まび地区支援プロジェクト」の実施
民間保育所災害復旧費助成事業	101,207	101,200	7							民間保育所の施設や設備等の復旧費に対する一部助成
災害見舞金支給経費	1,866,050	258,797	1,607,253	8,970	4,200	4,770				住家の被害の程度に応じて見舞金を支給
災害特別融資利子補給事業				217	0	217	1,425	0	1,425	災害復旧に必要な資金の融資を受け、た方に対して利子補給金を交付
体育施設管理運営事業	12,767	0	12,767							体育施設を避難所や仮設住宅用地等として使用したことによる指定管理者への補償
体育施設整備事業	4,481	0	4,481	4,322	0	4,322	30,000	30,000	0	物資配送拠点として使用した真備総合体育館の床等の修繕料及び真備柔剣道場の復旧
戸籍情報システム運用経費	380	0	380							真備支所の戸籍事務用機器の復旧
社会福祉施設災害復旧事業				327,750	327,700	50	642,528	642,200	328	真備健康福祉館の復旧
障がい者福祉施設災害復旧事業	2,018	1,209	809							障がい者就労支援施設「まびの道」の復旧
老人福祉施設災害復旧事業	162	0	162	26,026	20,400	5,626				シルバー人材センター真備支所の復旧
児童厚生施設災害復旧事業	1,652	1,600	52	99,296	66,364	32,932				真備児童館の復旧
公立保育所災害復旧事業	343,193	333,422	9,771	34,493	22,900	11,593	425,855	423,000	2,855	まきびの里保育園の復旧
文化施設災害復旧事業				81,106	80,800	306	1,561,700	1,554,200	7,500	マービーふれあいセンターの復旧

交通安全施設災害復旧事業	1,215	0	1,215									カーブミラーの復旧
隣保館施設災害復旧事業				46,328	46,204	124	77,560	56,877	20,683			真備人権ふれあい館の復旧
国民健康保険事業特別会計繰出金	5,012	0	5,012									
介護保険事業特別会計繰出金	3,254	0	3,254	5,939	0	5,939	6,021	0	6,021			
民生費関連事業 計	2,665,063	983,794	1,681,269	820,247	754,240	66,007	2,928,483	2,889,671	38,812			

(単位：千円)

③災害救助費（民生費）関連

件名	平成 30 年 度決算額	財源内訳		令和元年度 決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和 2 年度 予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
避難所設置・運営	308,822	308,822	0							避難所の設置・運営
避難者支援経費	425,591	425,591	0							被災者に対する食料や飲料水等の提供
応急仮設住宅設置経費	283,676	283,676	0	4,084	4,084	0	37,711	37,711	0	応急仮設住宅の設置
被災住宅応急修理事業	499,017	499,017	0	91,233	91,233	0	16,936	16,936	0	被災住宅の応急修理
学用品の供与	21,933	21,933	0							児童・生徒に対する学用品の供与
遺体安置所運営	4,131	4,131	0							
障害物の除去	33,244	33,244	0							被災地の障害物除去等
災害救助事務費	169,734	169,734	0							災害対応を行った職員の時間外手当
その他災害救助費	143,929	2,067	141,862	4,537	0	4,537	4,653		4,653	市営住宅（空家）の修繕や被災者生活再建支援金の支給事務等
災害援護資金貸付事業	225,800	225,800	0	35,790	35,790	0				被災された世帯に対する災害援護資金の貸付け
災害弔慰金等給付事業	162,500	121,875	40,625	30,000	22,500	7,500				災害により亡くなった方の遺族に弔慰金を支給
災害救助費（民生費）関連事業 計	2,278,377	2,095,890	182,487	165,644	153,607	12,037	59,300	54,647	4,653	

④衛生費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
防疫活動事業	31,490	15,745	15,745	1,672	836	836				被災家屋消毒のための物資配布や消毒作業
災害廃棄物処理経費	7,343,493	7,260,864	82,629	8,611,676	8,581,426	30,250	1,957,543	1,956,818	725	被災により発生した災害廃棄物の処理等
産後ケア事業	342	171	171							被災者が利用する際の自己負担額を軽減
被災者見守り・相談支援等事業	5,201	5,201	0							被災高齢者等への戸別訪問による現状把握等
衛生施設災害復旧事業	10,929	9,800	1,129							墓地、ごみステーション等の復旧
環境施設災害復旧事業	12,185	12,100	85							大気調査測定局の復旧
衛生費関連事業 計	7,403,640	7,303,881	99,759	8,613,348	8,582,262	31,086	1,957,543	1,956,818	725	

⑤労働費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
労働施設災害復旧事業	2,376	2,300	76							山陽ハイッ法面の復旧
労働費関連事業 計	2,376	2,300	76							

⑥農林水産業費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
農業施設管理経費							4,780	0	4,780	真備土砂仮置場の土地借上料
土地改良区事務事業補助金	740	0	740							備南土地改良区の施設復旧費に対する一部助成
農業施設災害復旧費助成事業	1,718,645	1,304,737	413,908	1,136,661	875,943	260,718				被災農業者への早期営農再開支援
災害ごみ回収事業（水産業）	556	0	556							海に流出した災害ごみの回収・処分
農業制度融資助成事業	5	2	3	132	66	66	232	116	116	被災農業者への復旧等の資金借入に係る保証料の助成
農業施設災害復旧事業	751,973	296,903	455,070	727,116	426,234	300,882	26,700	0	26,700	農業施設の復旧
農道災害復旧事業				49,962	21,015	28,947				農道の復旧
林地災害復旧事業	144,374	10,548	133,826	275,856	135,355	140,501	20,000	10,000	10,000	林地の復旧
林道災害復旧事業	1,458	0	1,458	5,886	4,158	1,728				林道の復旧
農業集落排水事業会計繰出金	86	0	86							
農林水産業費関連事業 計	2,617,837	1,612,190	1,005,647	2,195,613	1,462,771	732,842	51,712	10,116	41,596	

⑦商工費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
中小企業融資事業	101,806	0	101,806	47,976	0	47,976	101,508	101,000	508	被災中小企業への利子補助金及び保証料補給金
被災中小企業事業継続奨励事業	19,500	0	19,500	9,900	0	9,900	21,800	21,000	800	事業再建・事業継続に取り組み被災中小企業への補助金
真備地区産業復興推進事業	50,521	50,436	85	12,435	75	12,360	19,820	19,000	820	復興商店街開設や地域おこし協力隊委嘱など
商工費関連事業 計	171,827	50,436	121,391	70,311	75	70,236	143,128	141,000	2,128	

⑧土木費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
住宅災害復旧等資金利子補給金				578	0	578	8,024	150	7,874	被災住宅再建融資に対する利子補助金
避難経路等確保事業				132,022	57,300	74,722	192,794	183,497	9,297	安全な避難地・避難路の確保
真備緊急治水対策事業				172,926	171,400	1,526	746,603	709,227	37,376	小田川堤防道路の拡幅等を実施
復興計画策定事業	14,019	0	14,019	2,378	0	2,378	3,858	0	3,858	復興計画の策定
まび復興支援バス等運行事業	9,821	0	9,821							まび復興支援バス等を行
井原線補助事業	2,073	0	2,073							井原鉄道の施設復旧費に対する一部助成
応急仮設住宅運営経費	4,672	4,602	70	9,932	9,932	0	14,320	14,320	0	応急仮設住宅(6カ所、266戸)の維持管理
被災高齢者向け住宅再建支援事業				53,510	1,087	52,423	194,000	193,800	200	60歳以上の被災者が活用する住宅再建融資に対する補助金
被災者向け賃貸住宅家賃低廉化補助金							14,880	7,440	7,440	災害公営住宅に入居できなかった方に対して、民間賃貸住宅の家賃を災害公営住宅並みにするための補助金
災害公営住宅整備事業				121,236	28,823	92,413	2,281,570	2,280,949	621	災害公営住宅の建設
道路橋りょう災害復旧事業	972,567	393,129	579,438	413,661	291,528	122,133	335,619	335,530	89	道路の復旧
河川災害復旧事業	58,883	54,669	4,214	37,138	37,120	18				河川の復旧
公園施設災害復旧事業	91,032	81,148	9,884	93,247	72,780	20,467				公園の復旧
復興防災公園(仮称)整備事業							189,265	174,733	14,532	復興防災公園(仮称)を整備
市営住宅災害復旧事業				6,864	6,300	564	656,136	656,071	65	市営住宅の復旧
下水道事業会計繰出金	47,139	0	47,139	110	0	110				
土木費関連事業 計	1,200,206	533,548	666,658	1,043,602	676,270	367,332	4,637,069	4,555,717	81,352	

⑨消防費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
常備消防施設災害復旧事業	135,413	114,473	20,940	210,437	209,500	937				玉島消防署真備分署の復旧
非常備消防施設災害復旧事業	29,837	29,837	0							消防機庫5カ所の復旧
消防費関連事業 計	165,250	144,310	20,940	210,437	209,500	937	0	0	0	

⑩教育費関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
被災児童生徒通学支援事業	605,347	217,273	388,074	679,395	678,882	513	128,368	127,329	1,039	被災児童生徒の通学支援のためのスクールバス運行等
スクールカウンセラー配置事業	4,345	0	4,345	3,182	0	3,182	1,451	0	1,451	真備地区の学校のスクールカウンセラー配置時間増
放課後学習サポート事業	4,620	4,620	0							被災した中学生のための学習支援員配置
小・中学校就学援助事業	125,604	84,513	41,091							被災児童生徒への就学援助
学校施設災害復旧事業	1,201,375	430,998	770,377	2,066,931	1,962,815	104,116	6,000	0	6,000	校舎等の復旧工事、土砂撤去、仮設校舎設置、学校教員整備等
生涯学習施設災害復旧事業	56,350	33,296	23,054	299,548	227,000	72,548	468,085	465,600	2,485	公民館、図書館等の復旧
教育費関連事業 計	1,997,641	770,700	1,226,941	3,049,056	2,868,697	180,359	603,904	592,929	10,975	
一般会計 合計	20,590,285	15,104,785	5,485,500	17,657,501	15,947,201	1,710,300	10,657,362	10,355,971	301,391	

①特別会計・企業会計関連

(単位：千円)

件名	平成30年度決算額	財源内訳		令和元年度 決算額 (繰越含む)	財源内訳		令和2年度 予算額 (繰越含む)	財源内訳		事業内容
		特定財源	一般会計 繰入金		特定財源	一般会計 繰入金		特定財源	一般会計 繰入金	
国民健康保険事業	266,155	261,143	5,012	400,924	400,924	0	128,000	128,000	0	医療費の自己負担金減免等
介護保険事業	88,617	85,363	3,254	143,158	137,219	5,939	48,168	42,147	6,021	介護サービス費の自己負担金減免等
下水道事業	262,631	211,053	51,578	1,071,199	1,071,089	110				真備浄化センター等の復旧等
農業集落排水事業	26,386	26,300	86							箭田川南浄化センター等の復旧
水道事業	187,055	181,254	5,801	5,227	5,227	0	65,100	65,100	0	応急給水、水道管路・施設の復旧等
特別会計・企業会計関連事業計	830,844	765,113	65,731	1,620,508	1,614,459	6,049	241,268	235,247	6,021	

5 減免・特例による歳入減分

(1)平成 30 年度

①一般会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	一般財源	
個人市民税	448,961	0	448,961	6,597 件
固定資産税	201,974	0	201,974	土地：2,265 件 家屋：8,654 件 償却資産：2,258 件
事業所税	4,529	0	4,529	12 件
都市計画税	31,658	0	31,658	土地：735 件 家屋：5,608 件
公立保育所保育料	16,546	14,550	1,996	207 件
公立幼稚園保育料	5,444	5,079	365	277 件
民間保育所入所者負担金	21,116	17,531	3,585	210 件
公立認定こども園保育料	1,298	1,298	0	12 件
定時制高等学校授業料	27	0	27	1 件
短期大学授業料等	847	0	847	授業料：3 件 入学検定料：2 件 入学金：2 件
市営住宅使用料	3,734	0	3,734	60 件
総務費関連手数料	2,436	0	2,436	所得・課税証明書，固定資産評価・課税証明書等：7,947 件
民生費関連手数料	13,309	0	13,309	住民票の写し，印鑑登録証明書等：39,790 件
衛生費関連手数料	1,187	0	1,187	し尿処理手数料，食品営業許可申請等手数料等：253 件
土木費関連手数料	1,754	0	1,753	建築確認申請等手数料，建築許可等申請手数料等：839 件
その他手数料	630	0	630	り災証明書，危険物変更許可申請書等：634 件
合計	755,450	38,458	716,992	

②特別会計，企業会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	自己財源	
国民健康保険料	206,036	206,036	0	全壊：2,002 件 半壊・大規模半壊：246 件 床上浸水：43 件 収入減等：8 件
介護保険料	215,920	215,920	0	全壊：4,185 件 半壊・大規模半壊：522 件 床上浸水：74 件 収入減等：5 件
下水道使用料	63,323	0	63,323	8,708 件
農業集落排水使用料	1,554	0	1,554	202 件
水道使用料	88,029	0	88,029	15,744 件
水道利用加入金等	36,438	0	36,438	水道利用加入金：145 件 審査・検査手数料：1,833 件 配水管新設工事費：1 件
合計	611,300	421,956	189,344	

(2)令和元年度

①一般会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	一般財源	
個人市民税	318,291	0	318,291	雑損控除による減収額
固定資産税	52,608	0	52,608	被災特例分 土地：1,111 件 家屋：55 件 償却資産：148 件 公費解体減免分 家屋：2,132 件
事業所税	11,909	0	11,909	25 件
都市計画税	5,752	0	5,752	被災特例分 土地：703 件 家屋：36 件 公費解体減免分 家屋：1,365 件
市営住宅使用料	4,804	0	4,804	50 件
総務費関連手数料	2,340	0	2,340	所得・課税証明書、固定資産評価・課税証明書等：6,673 件
民生費関連手数料	6,607	0	6,607	住民票の写し、印鑑登録証明書等：19,401 件
土木費関連手数料	3,154	0	3,154	建築確認申請等手数料、建築許可等申請手数料等：589 件
その他手数料	79	0	79	り災証明書、危険物変更許可申請書等：32 件
合計	405,544	0	405,544	

②特別会計、企業会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	自己財源	
国民健康保険料	59,302	59,302	0	全壊：1,809 件 半壊・大規模半壊：232 件 床上浸水：37 件 収入減等：7 件 令和元年 6 月分まで
介護保険料	33,341	33,341	0	全壊：4,011 件 半壊・大規模半壊：506 件 床上浸水：73 件 収入減等：5 件 令和元年 6 月分まで
下水道使用料	128	0	128	50 件
水道使用料	1,811	0	1,811	683 件
水道利用加入金等	31,410	0	31,410	水道利用加入金：216 件 審査・検査手数料：2,816 件 配水管新設工事費：13 件
合計	125,992	92,643	33,349	

(3)令和2年度

①一般会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	一般財源	
個人市民税	276,978	0	276,978	雑損控除による減収見込
固定資産税	67,218	0	67,218	被災特例分 土地：1,543 件 家屋：836 件 償却資産：374 件 公費解体減免分 家屋：113 件
事業所税	46	0	46	1 件
都市計画税	9,672	0	9,672	被災特例分 土地：998 件 家屋：553 件 公費解体減免分 家屋：68 件
市営住宅使用料	3,266	0	3,266	47 件
総務費関連手数料	901	0	901	所得・課税証明書、固定資産評価・課税証明書等：2,590 件
民生費関連手数料	2,109	0	2,109	住民票の写し、印鑑登録証明書等：6,213 件
土木費関連手数料	988	0	988	建築確認申請等手数料、建築許可等申請手数料等：154 件
合計	361,178	0	361,178	

②特別会計、企業会計

(単位：千円)

減免件名	歳入減少額	補填財源内訳		減免・特例等の状況
		特定財源	自己財源	
下水道使用料	3	0	3	1 件
水道使用料	389	0	389	180 件
水道利用加入金等	7,147	0	7,147	水道利用加入金：52 件 審査・検査手数料：520 件 配水管新設工事費：1 件
合計	7,539	0	7,539	



参考資料 新聞記事

「参考資料 新聞記事」は、株式会社山陽新聞社から提供されたもので、被災者等への配慮のため、写真及び記事の一部を加工している資料があります。

岡山大雨 甚大被害

1人死亡7人不明

小田川決壊、家屋浸水

全国50人超不明



川の氾濫で水没した倉敷市美穂町地区一丁目新（住民提供）

西日本を中心に7日、記録的大雨で土砂崩れや水害が相次ぎ、5日以降、岡山県では土砂崩れで住宅が倒壊し、死者1人、行方不明7人、重傷0人、軽傷0人、全壊3棟（岡山市2、井原市1）、半壊0棟、床上浸水2棟（鏡野町、瀬戸内市）、床下浸水26棟（津山市5、真庭市2、新見市5、鏡野町7、美咲町3、美作市2、和気町1、瀬戸内市1）の被害が出ている。岡山県では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内の被害	
人的被害	死 者 1人 行方不明 7人 重 傷 0人 軽 傷 0人 全 壊 3棟（岡山市2、井原市1） 半 壊 0棟
住宅被害	床上浸水 2棟（鏡野町、瀬戸内市） 床下浸水 26棟（津山市5、真庭市2、新見市5、鏡野町7、美咲町3、美作市2、和気町1、瀬戸内市1）
避難指示	69473世帯（154388人）
避難所開設	365
電気 停 電	45600棟

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内の主な大雨被害



岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

岡山県内では、7日、救助が必要な被害者100人以上と推定し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人の捜索活動を行っている。2、3日に発生した、8千人の捜索活動を行っている。

257

新たに13人遺体発見

真備11人、笠岡と総社1人

[illegible]

床は引きつつあるものの、積熱として広範囲が貯水している食料市真境町地区（1月11午前10時30分）

[illegible]

小田、高馬川 計3カ所決壊

「想定超えた水位」

小田、高馬川 計3カ所決壊

國交省調査団

命数山真備町地区に甚大な浸水被害をもたらした豪雨災害で、国土交通省の選

[illegible]

と警報、自動車は活動を断
調査は午前八時五十分開始
った。雨量計では、小川田
では別にも一カ所を除く
ていたものも観測を得られ
とした上で、国道で東城
書の大きな改修に費した
この規模の河川川道に
沿う下流まで水が溢れてこ
どまったため、時間がか
かりかた激しい上ながらか
がある。また

最前線計画は関川の決
議のとおり、県内で地区
会館の約半に当たる約一
万600戸が対象となつてい
る。また、県内各約
2万600戸が新水でお
り、給水施設を整へようとしておられる。

県の昨日午後8時現在の
まですは、関係の省官が
来てきてない農林省な
ごを除き、住友の金・全・
一部担当は防衛、床土・
床下埋金は防衛、床土・
700人位に世帯の約9万7
000人に避難指示が出さ
れており、避難所には15市
村の1万6千戸、蒲原は三
沙汰のないため1万8千カ
所で全面閉鎖止めとなつて

倉敷市馬場地区の小学校は、この町を代表する小学校となっており、その歴史は古く、明治の初めに創立された。創立以来、この小学校は、この町を代表する小学校として、この町の人々から愛され、この町の人々から支えられてきた。この小学校は、この町の人々から愛され、この町の人々から支えられてきた。この小学校は、この町の人々から愛され、この町の人々から支えられてきた。

4234人が避難所生活

記録的な大雨の影響で、岡山県内は9日までの住民が避難生活を迫られている。同日現在の集計で、10人以上が身を寄せた主な避難所が4市の小学校と30カ所であり、人数4234人になっている。

主な避難施設などは以下の通り。

【岡上】 9日午前7時現在
 香取中（小）入▽避難小10人
 △西条小（小）入▽避難休小1人
 【倉敷】 9日午前7時現在
 倉敷東小（小）入▽倉敷小17人△連勝小80人
 ランティア（約30分）運の水道が水不足で、給車の水が不足し、給車の水を十分に使用しない。支援物資を届けに来る市民もおり、友人と一緒におむつやトイレットペーパーなどを持って来た会員入は「ツッター＝岡川入は「ツッター＝岡川入があることを知り、自分ができることをしたい」と話した。

岡市立万小（小）校・岡市立高町上（小）には約80人が避難。浸水した宅地から救出された岡市高町上（小）校・岡市高町上（小）校は、「こはいいまじらぬ」に、避難者が避難すれば健康な心配と不安が出た。

岡山県内小中高暫設校が臨時休校

岡山県と県教委の発表によると、県内の公立小中高2学期校が臨時休校となる。市町立学校を全て休校とし、2学期校が臨時休校となる。市町立学校を全て休校とし、2学期校が臨時休校となる。市町立学校を全て休校とし、2学期校が臨時休校となる。

岡山県内小中高暫設校が臨時休校

岡山県と県教委の発表によると、県内の公立小中高2学期校が臨時休校となる。市町立学校を全て休校とし、2学期校が臨時休校となる。市町立学校を全て休校とし、2学期校が臨時休校となる。

爪痕の大きさに絶句

岡山豪雨

すべて泥だらけ

「どこから手を付けられ」

記録的豪雨による大規模な被害を受けた岡山県内は9日、各地で爪痕の大きさが改めて浮き彫りとなった。多くの家が濁流にのまれた倉敷市真備町地区では、住民が壁方に暮れた様で家屋の後片付けに追われ、避難所での生活を余儀なくされた人たちは疲労の色をにじませた。JR在来線の運転再開などの動きが見られたものの、多くの学校が臨時休校するも住民生活への影響も続いた。(一重要通)

「これからどうすれば」 散く踏没した道路、押 なるなんて」と 小田川などの決壊により、 中心部が濁流にのみ込まれ、 倉敷市真備町地区では9 日、地域の大部分で水が引 き始め、甚大な被害の実態 が徐々に明らかになってき た。住民らは惨状に声を失 った。



泥に覆われ、物が散乱した道路の復旧に当たる住民。9日午前9時50分、倉敷市真備町有井

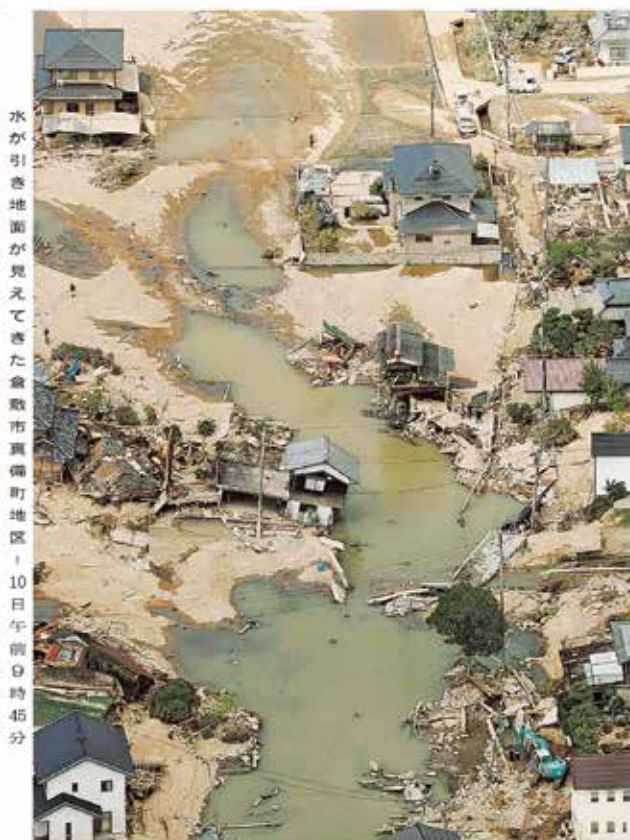
市内は国土交通省などの ボンブ車13台が8日昼から 排水作業を行い、あちこち に冠水や土砂が残るもの の、早朝には地域が多くが 歩いて通れるようになって いった。住民らは泥に埋もれた 自宅の片付けに追われた が、断水や停電が続き、同 事は何よりだった」と語っ

所の会社員。さん (88)は「どこから、どう手 を付けられいいかも分から ない」と嘆いた。

約千人体制で続けられた 自衛隊や警察、消防などの 救助作業はようやく一段落 した。約200人が取り残さ されたまび記念病院ではボ ートやヘリコプターによる 救助が続けられ、9日未明 に全員の救出が完了した。

建築業。さん(64) 同市真備町有井は「不安 で仕方なかったが、街が無 事で何よりだった」と語っ

參考資料



水が引き地面が見えてきた倉敷市真備町地区。10日午前9時45分

西日本豪雨

岡山懸命の搜索続く

西日本豪雨で岡山県内では10日も朝から、警察、消防、自衛隊が、地区の約3割が水没した倉敷市真備町地区を中心に行方不明者の捜索や救助活動などに当たった。岡山県の同日午前8時現在のまとめでは、死者36人、行方不明者5人、関係者によると、同地区ではこの日までに、さらに複数の遺体が発見されたという。(2、3面に関連記事)

倉敷市真備町地区では、自衛隊、消防、警察などが約千人体制で午前9時から行方不明者の捜索を再開。水が引かず、ほぼ手つかずだった小田川北岸沿いの住宅地を中心に、一軒一軒に声を掛けながらローラー作戦で安否を確認した。

県の災害対策本部によると、同地区以外の県内でも、

一方、危険は収まりつつあるとして、避難所を閉鎖する自治体は徐々に増え、10日午前8時現在で10市町57カ所と、避難所数は前日夜の約半数となった。ただ、いまだに自宅に戻れない被災者は約4千人に上っている。

県内全域では、被害の全容が把握できていない倉敷市などを除き、住宅の全半壊・一部損壊は計35棟、床上・床下浸水約8490棟、3757世帯8735人が避難指示が出されている。道路は土砂崩れなどのため157カ所全面通行止めとなっている。

人的被害	死者	36人
	行方不明	5人
	重傷	2人
	重軽傷不明	4人
住宅被害	軽傷	9人
	全壊	14棟(津山市4、高梁市4、新見市3、岡山市1、玉野市1、鏡野町1)
	半壊	6棟(玉野市2、井原市2、岡山市1、矢野町1)
	部分焼	1棟(総社市)
避難指示	一部損壊	15棟(岡山市3、津山市3、瀬戸内市3など)
	床上浸水	約3,520棟(岡山市約3,260、矢野町約200、和気町26など)
	床下浸水	約4,970棟(岡山市約4,370、矢野町約400、美作市81など)
	避難指示	3,757世帯(8,735人)
避難所開設	避難所開設	57カ所
	断水	20,018戸(倉敷市8,900、高梁市7,071など)
	停電	784棟(倉敷市760、津山市10、総社市10など)
	水道電気	

岡山県内の被害
10日午前8時現在
※住宅被害は全壊を指し、一部損壊などを含む

岡山県内の死者・行方不明者
豪雨災害による岡山県内の市町村別の死者・行方不明者数
【死亡】倉敷市1人▽岡山市(真備町地区)28人▽笠岡市

3人▽総社市3人▽井原市1人
【不明】総社市1人▽倉敷市(真備町地区)1人▽高梁市1人▽新見市1人▽鏡野町1人

酷暑 懸命に搜索、片付け

西日本豪雨

西日本豪雨により広島県で浸水被害が出た倉敷市真備町地区では11日も朝から、警察や消防、自衛隊

倉敷真備 ボランティア本格始動

による行方不明者の搜索が続いた。泥に覆われた家の住民は後片付けに追われる一方、同市内から集まったボランティアが本格始動。連日の暑さが加わり、過酷さを増す被災現場で、それぞれが懸命の活動を繰り広げた。(一面関連)

倉敷市真備町地区の避難所となり多くの住民が身を寄せている岡山小体育館。11日午後0時1分、岡山県民



搜索は午前8時から約千人態勢で始まり、小田川沿いの農地や一部の住宅地で行われた。長靴姿の隊員たちは泥でぬかるむ田畑に棒を刺すなどし、不明者がいないかを確認していた。

住民たちは使えなくなつた家具や日用品などを家から運び出した。岡町有井で夫と暮らす女性(73)は、市内の第の家から通って片付けをしており、「ゴミの処理や家の修繕、今後の生活」を考え出すと夜中に何度も目が覚め、食欲も落ちていく。どうなることや」と黙々と汗を流した。

中国職業能力開発大学校(岡市玉島長尾)の体育館では、市社会福祉協議会による災害ボランティアセンターが開設された。午前9時の受け付け開始から、対象となる市内在住の大学生や市民が次々と登録。午前中は140人がバケツやほうきなどを手にバスに乗り、浸水した岡市真備町川辺地区に向かった。民家で土砂の撤去や家財の片付け

などニーズに合わせて作業する。岡市中歌の会社員さん(42)は「被災した友人もいる。少しでも困っている人たちの力になりたい」と語った。

避難所では依然多くの人が生活。約400人が身を寄せる岡田小(岡町岡田)の体育館では10日に希望のクロー10基が設置されており、高齢者や子どもたちが暑さをしのいでいた。

さん(79)「岡町小田」は妻(76)と2人暮らしで、「熱中症にならないよう、水分をしっかりと取って体調管理に気を付けたい」と話した。

断水復旧足かせに

西日本豪雨で濁流に襲われた倉敷市真備町地区は、ほぼ全域の約8900世帯で断水が続き、生活再建の足かせとなっている。市は給水所の設置などで対応。水道管の破損箇所を調べるため、浸水区域で試験通水を始めたが、復旧のめどは立っていない。

市と自衛隊は11日までに、岡田小（岡田岡田）、二万小（岡田上二万）など市内7カ所に臨時の給水所を設置した。給水車を同町地区に巡回させている。

給水所がある市真備支所（岡田岡田）を訪れていた自営業 さん（51）＝同所＝は給水所と自宅を毎日2往復し、1往復で水の入ったポリタンク（約20リットル）2個を運んでいる。自宅は高台にあり浸水を免れたものの、断水が続く、食器を洗ったり、トイレで流したりするため給水所を利用している。

山田さんは岡親宅が岡田地区にあり、2階まで浸水した。片付けを手伝っており、泥水につかった家財の運び出しや床にたまった泥をかき出す作業で、衣類が汚れてしまう。洗濯機に使う水がないため、総社や倉敷市内のコインランドリーに通っている。さんは「生活するには水が必要不可欠。一日も早く水道が復旧してほしい」と願う。

市は水道復旧に向け、10日から浸水区域で試験通水を始めた。11日は

8900世帯生活困窮

午前10時から午後7時まで、氾濫した小田川の北側、その後は南側で実施。通水中は多くの世帯で水道から水が出るため、飲むことはできないものの、片付けなどには使えるという。

試験通水に合わせ、災害協定を結ぶ市内の水道管工事業者をつくる市営事業所の全体像を把握しないと、復旧の見通しは立たない」と話している。



倉敷市真備支所に設けられた給水所で、ポリタンクに水を入れる被災者＝11日午前10時45分

ごみ、渋滞 復旧阻む

西日本豪雨1週間

岡山死者59人に

西日本豪雨による甚大な被害が出ている岡山県内で12日午後5時までに、新たに犠牲者1人（年齢推定中）と行方不明の1人の遺体が見つかり、県内の死者は計59人となった。行方不明者はこれまで生存が確認された人を除き、計25人だった。雨の3割が水没した倉敷市真備町地区では同日現、被害が深刻化するなど徐々に岡山へと向かい始めたが、膨大な量のゴミみや交通渋滞も復旧は遅れている。

倉敷・真備 停電解消

岡山県対策本部による、市で4人となった。と、速復で見つかった犠牲者。岡本県は12日、連日の雨は真備町地区で、もう1人、死が得られた死者について、氏名や年齢などの情報を、死者は岡山地区で50人、犠牲者を13日から公表する方針を



災害ごみが山積みされた道路に車列が続く倉敷市真備町地区中心部。12日午後2時30分

死者	59人
行方不明	25人
重傷	3人
軽傷	12人
全壊	18棟(倉敷市7、高梁市4、新見市3、津山市1など)
半壊	19棟(倉敷市7、高梁市5、玉野市3、井原市2など)
一部損壊	44棟(倉敷市18、真備町4、笠原町4、新見市4など)
床上浸水	約5,100棟(岡山市約3,260、倉敷市567、倉敷市約450など)
床下浸水	約5,740棟(岡山市約4,370、美作町約400、倉敷市289など)
避難指示	3,757世帯(8,735人)
避難所開設	44カ所
断水	約16,500戸(倉敷市8,900、高梁市5,987など)
停電	4棟(岡山市4)

岡山県内の被害
12日午後5時までに、岡山県内では、岡山県対策本部による、市で4人となった。と、速復で見つかった犠牲者。岡本県は12日、連日の雨は真備町地区で、もう1人、死が得られた死者について、氏名や年齢などの情報を、死者は岡山地区で50人、犠牲者を13日から公表する方針を

岡山県対策本部による、市で4人となった。と、速復で見つかった犠牲者。岡本県は12日、連日の雨は真備町地区で、もう1人、死が得られた死者について、氏名や年齢などの情報を、死者は岡山地区で50人、犠牲者を13日から公表する方針を

岡山県内市町村別死者数

倉敷市1人、岡山市(真備町地区)50人、倉敷市4人、笠原町3人、井原市1人

岡山県対策本部による、市で4人となった。と、速復で見つかった犠牲者。岡本県は12日、連日の雨は真備町地区で、もう1人、死が得られた死者について、氏名や年齢などの情報を、死者は岡山地区で50人、犠牲者を13日から公表する方針を

2018年(平成30年)7月13日 金曜日

土石流被害の倉敷・広江地区住民

「助かったのは奇跡」

西日本豪雨による土
石流に見舞われ、家屋
が全半壊する被害が出
た倉敷市広江地区。徐
々に復旧が進んでいる
が、依然として岩や木
々が道路を覆い、住民
らは「助かったのは奇
跡だ」と改めて被害の
恐ろしさをかみしめて
いる。

7日午前2時ごろ、
コスモタウン広江団地
(約200世帯)の裏
山の一部が崩れ、大量
の土砂が住宅街に流れ
込んだ。山のすぐ近く
に住む さん
(59)は雷のような激し
い音を聞き「道路を見
ると泥水が流れてきて



土砂崩れがあった倉敷市広江のコスモタウン広江団地。まだ泥や木々が道路を覆っている＝11日

いた」。すぐさま家族
を起し、逃げようと
車に乗り込んだが、タ
イヤが半分泥に埋まり
走行できないため、走
って逃げたという。
現在、住民らがショ
ベルカーやトラックで
泥や木々を運び出して
いるものの、泥の中か
ら1層以上の岩が多数
を流れ、轢を通る県道

出てくるなど思っ
に進んでいない。
「こんな岩にぶつか
っていたらと思うと、
ぞっとする」と さん。
さんの向かい
に住む さん
(70)も「現場を見る
たびに当時の状況を
思い出してしまう。早
くどうにかしたい」と
嘆いていた。

(岩谷圭)



7月13日 山陽新聞朝刊紙面

西日本豪雨

支流5カ所も決壊判明

真備・小田川 岡山県内死者60人に

西日本豪雨による河川の氾濫で50人の犠牲者が出ている倉敷市真備町地区で、これまで判明していた小田川の2カ所と、小田川の支流・高馬川の1カ所に加え、新たに小田川の3支流の計5カ所でも堤防が決壊していたことが14日、岡山県への取材で分かった。エリアの3割が水没するという甚大な被害につながった原因とみられる。(2、3面に関連記事)

ボランティア続々

岡山県に多く、新たに決壊が確認された5カ所は、高馬川の右岸1カ所、



倉敷市真備支所から助けが必要な民家に向かうボランティア＝14日午前9時43分、倉敷市真備町新田



国土地理院発表の地図を基に作成

い考え。
県の同日午前11時までのまとめでは、新たに1人の遺体が見つかり、県内の死者は計60人となった。行方不明者は安否が確認された人を除き計6人。
県災害対策本部によると、県全体で避難所(計44カ所)に身を寄せているのは真備町地区の住民を中心に約2760人。住宅被害は倉敷市で全容を把握できていない段階だが、全壊壊・一部損壊は計2棟。床上・床下浸水は計約1万1230棟に上る。いまだに約1万6430戸で断水が続いている。道路は土砂崩れなどのため101カ所が全面通行止め。2150世帯5026人に避難指示が出ている。
14日に3連休の初日を迎えた被災地では、集まった大勢のボランティアが復旧作業に繰り出した。
倉敷市真備町地区には、岡山市社会福祉協議会の募集に応じた会社員や学生ら千人以上がバス30台で次々と現地入り。午前8時ごろから浸水被害が出た同町有井、熊田地区などの民家を訪れ、水没した家財の搬出などを手伝った。
この日の倉敷市の気度は正午現在で29.9度まで上昇。厳しい暑さの中、タオルで汗をぬぐいながら泥かきや片付けに精を出した。
岡山市北区東島田町、会社員 さん(37)は「目を覚ますような光景をテレビで目にし、いてもたっても困っている人の力になりたい」と話していた。

各地から支援の手

西日本豪雨

3連休初日 炎天下、作業難航 倉敷・真備

3連休初日の14日、西日本豪雨による岡山県内の被災地には全国から大勢のボランティアが駆け付けた。推計4600棟が浸水被害に遭った倉敷市真備町地区でも生活再建に向け、朝から災害ごみの搬出や泥かきが行われたが、県内はこの日、今年初の猛暑日（35度以上）に。熱中症とみられる症状を訴えるボランティアが相次ぎ、強烈な日差しと熱い風呂のような暑さが作業を阻んだ。



炎天下、被災した家財道具を片付けるボランティアたち。14日午前9時53分、倉敷市真備町箭田



熱中症予防のため水分補給をするボランティア＝14日午前10時26分、倉敷市真備町箭田

「水を含んだ家具は想像以上に重く、運ぶのは一苦勞。それでも被災者の方を思うと頑張れる」。新調市から駆け付け、炎天下、真備町箭田の浸水家屋の片付けに加わった会社員さん25人が大粒の汗を拭いた。

倉敷市では14日、市内在住者に限っていたボランティアの受け入れを市外に拡大した。会社員、学生ら真備町地区だけで全国から188人が集まり、バスに分乗して午前8時ごろには被災地へ。甚大な浸水被害が出た同町有井、川辺、箭田などの民家や商業施設で作業に着手した。

土砂をシャベルで取り除いたり、冷蔵庫や水を含んで重量を増した畳を数人がかりで運び出したり。会社員さん45人、倉敷市鶴の浦は「地元の様子に居ても立ってもいられなかった」と言い、福島県郡山市から駆け付けた公務員

さん(39)は「東日本大震災の時に倉敷市職員が支援してくれた。その恩返しです」。職場や学校のグループでの参加も目立ち、神戸国際大付属高(神戸市)の軟式野球部員ら9人は練習を返上して被災地に入った。

一方、14日の県内は午前中から気温が上昇。高梁、真庭市37・0度、倉敷市34・9度など全16観測地点のうち15カ所で今年最高を記録した。参加者は水袋を頭や首筋に当てたり、小まめに水分補給したりして暑さをしのいだ。真備町有井の民家では男性ボランティア(61)がめまいを覚え、その場に倒り込む場面も。男

性は「想像以上に暑酷な環境で体の熱が逃げない」と話し、水を飲んで体調の回復を待った。県と倉敷市の保健所、医療チームなどが情報共有を図る「倉敷地域災害保健復興連絡会議」は14日夜、ボランティアの熱中症対策を議題に挙げ、水分補給や休憩時間確保に向けた啓発について協議した。被災した真備町川辺の自宅にボランティアの支援を受けたさん(70)は「地区内は高齢者が多い。この暑さでは片付けが思うように進まず、ボランティアは本当にありがたいが、熱中症には最大限気を付けてほしい」と話した。

島さん(70)に取材

子どもの心身ケア

西日本豪雨

倉敷市の一時預かり、遊び場提供

西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市で、被災地の子どもを一時的に預かったり、遊び場を提供したりする動きが広がっている。被災した自宅の片付けに追われる保護者らの負担を軽減するとともに、ショックを受けた子どもたちの心身をケアする狙い。「助かる」「楽しく過ごせた」などと感謝の声が上がっている。

ボランティアが被災した子どもを預かった岡田幼稚園。16日、倉敷市真備町岡田



約1200人が水没した倉敷市真備町地区では、保育園や小規模保育事業所など5カ所の保育施設が浸水し、子ども計約390人が行き場を失った。市は8日から、市内14カ所の保育認定子ども園で「緊急の一時預かり事業」を開始。通常、一時預かりは保育施設に通う子どもは対象外だが、原則被災者であれば利用できるよう要件を緩めた。

日曜、祝日はうち5カ所で実施。16日は真備町地区から南東約6キロの福照保育園（倉敷市西阿知町）が、同地区で浸水した妻の実家の片付けに来園した会社員さん（30）＝福岡県久留米市＝の長男（4）と長女（2）を受け入れた。子どもは保育士と一緒に玩具で遊んだり、昼寝したりして過ごした。さんは「被災地はがれきやごみが散乱し、子どもにとって危ない。預かってもらえたおかげで作業に集中できた」と話した。

倉敷市の児童館は11日から、避難所近くの幼稚園など3歳から小学生を対象とした遊び場を緊急開設。市は14日から岡田幼稚園（同

一時預かりを始める計画だ。ボランティアも奮闘している。岡田幼稚園（倉敷市真備町岡田）などに市民らが託児所を特設。同園を訪れた小学1年女児（6）は「（浸水した）家はごみだらけだし、大切な絵本がぬれて悲しかった。ここは友だちに会えるからうれし

い」と笑顔を見せた。倉敷市子ども未来部の藤原昌行部長は「子どもたちが安全に過ごせる場所を確保し、提供したい。被災で傷ついた子どもたちの心と体のケアも欠かせない」としている。



倉敷市にある被災者の家。19日午後、倉敷市で撮影。

西日本豪雨

一部地域 水道復旧

6カ所で盛り土完了

倉敷・真備 決壊堤防緊急対策

西日本豪雨による河川の氾濫が激化し、瀬川の別水段と倉敷市真備町地区で16日午後、決壊した堤防の緊急復旧工事が完了した。国交省と岡山県が連携して、堤防は元の高さに戻り、氾濫が再び発生するのを防ぐ作業が完了した。真備町地区は、氾濫が激化し、水浸が一部地域で復旧。被災者の生活が徐々に回復している。



死者	61人
行方不明	3人
重傷	5人
軽傷	48人
避難者数	11,097世帯(27,786人)
避難所開設	42カ所
避難人数	約14,920人(避難者約7,500人、避難者約7,420人)

岡山県内の被害
16日午後、倉敷市真備町地区で、決壊した堤防の緊急復旧工事が完了した。国交省と岡山県が連携して、堤防は元の高さに戻り、氾濫が再び発生するのを防ぐ作業が完了した。真備町地区は、氾濫が激化し、水浸が一部地域で復旧。被災者の生活が徐々に回復している。

岡山県内の被害
16日午後、倉敷市真備町地区で、決壊した堤防の緊急復旧工事が完了した。国交省と岡山県が連携して、堤防は元の高さに戻り、氾濫が再び発生するのを防ぐ作業が完了した。真備町地区は、氾濫が激化し、水浸が一部地域で復旧。被災者の生活が徐々に回復している。

7月17日 山陽新聞朝刊紙面



倉敷市にある被災者の家。19日午後、倉敷市で撮影。

西日本豪雨

真備でごみ撤去本格化

自衛隊員備人 岡山県内全壊250棟超

岡山県内全壊250棟超
自衛隊員備人
倉敷市は16日、西日本豪雨による被害が甚大で、倉敷市真備町地区で、大規模な水浸が広がっている。倉敷市は16日、倉敷市真備町地区で、大規模な水浸が広がっている。倉敷市は16日、倉敷市真備町地区で、大規模な水浸が広がっている。

死者	61人
行方不明	3人
重傷	5人
軽傷	48人
避難者数	41カ所
避難人数	2,900人
避難所開設	約8,140人(避難者約7,500人、避難者約6,640人)

7月18日 山陽新聞夕刊紙面

保健師が健康状態確認

倉敷市 真備全戸訪問を開始

西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町地区で20日、市は

保健師など福祉関係者している在宅避難者」
「避難所から片付けなどで一時的に自宅に



戸別訪問を終え、在宅避難者らの課題を話し合う保健師

戻ってきた人の健康状態を確認してアドバイスを。初日は同市の保健師6人が2班に分かれて真備町川辺地区の約320戸を回り、半数ほどの世帯の現状について住民や近所の人から聞き取った。住民からは「夜暑くて眠れない」「砂ぼこりのため目やにが出る」とい

県介護支援専門員協会から駆け付けた専門員4人も訪問した。保健師によると、暑さだけでなく、水分不足による脳梗塞や心筋梗塞を招く恐れがあり、先が見えない不安から精神的ケアが必要なケースも懸念される。

市児島保健推進室の瀬戸口幸恵主任(40)は「在宅避難者の中には『もっと大変な人がいる』と遠慮している人も多いが、しっかりSOSを出してほしい」と呼び掛けている。市は今後、態勢を拡大し、できるだけ早く真備町地区の全約8800戸を訪問する予定。

7月21日 山陽新聞朝刊紙面

西日本豪雨

少しでも役に立ちたい

夏休み 中高生、真備に次々

西日本豪雨に見舞われた岡山県内の被災地は21日、夏休みに入った中学、高校生のボランティアが各地から駆け付けた。広範囲で浸水被害が出た倉敷市真備町地区では、災害の爪痕を目の当たりにしながら、猛暑の中で家屋の片付けなどに汗を流した。(3面に関連記事)

同地区への派遣窓口となる市災害ボランティアセンター(同市玉島長尾)では朝から、大人に交じって受け付けをする高校生グループの姿が見られた。「被災地の大きな状況は変わっていない。少しでも役に立つことができれば」と、クラスメイト5人と参加した山陽女子高1年中野穂香さん(15)。

受け付けを済ませた学生らは市真備支所(同市真備町箭田)などにシャトルバスで移動後、活動をスタート。家族で来た同市立新田中3年鴨生駿希さん(14)は同町箭田の民家で泥のつい



浸水被害を受けた家屋の片付けに汗を流すボランティアの中学生(写真中央)＝21日午前10時30分、倉敷市真備町箭田

たカーテンを外したり、家財を運び出したりした。片付けにはおもしろいし、大変な作業だが、少しでも力になれば」と話した。別の集合場所を経由して同町有井に入った岡山中1年洲脇孝幸さん(12)は、プールに行く予定を変更し父の誘いでボランティアに加わった。「被災地は想像以上の被害の大きさに驚いた」と言い、泥が残る床のモップがけに取り組んだ。市災害ボランティアセンターでは午前11時前までに、岡山県内や東京、大阪などの約800人が受け付けを済ませた。このうち中高生は約200人で、部活動単位での参加が目立ったという。同センタースタッフの小林由高さん(36)は「人手が足りない中で大変ありがたい。熱中症予防には十分気を配ってほしい」と話した。県災害対策本部の21日午前9時現在のまとめでは、死者・行方不明者は前日と変わらずそれぞれ61人と3人。住宅関係では、全壊2250棟、半壊・一部損壊189棟、床上・床下浸水約1万1640棟に上っており、約8140戸が断水。2751人が避難所生活を続けている。

7月21日 山陽新聞夕刊紙面

応急修理受け付け開始

倉敷市 全半壊住宅に補助

倉敷市は23日、西日本豪雨で被害が出た住宅の応急修理費用を補助する「応急修理制度」の受け付けを始めた。窓口の市役所本庁には、自宅での生活を希望する大勢の被災者が足を運んだ。

対象は大規模半壊と半壊で、全壊でも応急修理で居住可能な場合は受け付け。屋根や外壁、水道配管など緊急を要したり、居住に不可欠だったりする箇所の補修費用として、1世帯当たり58万4千円を上限に助成する。制度を利用すると、民間住宅を借り上げる「見なし仮設住宅」などへの入居はできなくなる。

窓口の市役所7階建築指導課にはこの日、午前8時半の受け付け開始から希望者が次々と訪れ、職員が被害箇所などを記した申込書や、罹災証明書といった必要書類を確認していた。

では午前10時の受け付け開始前から、旭川水系・砂川の堤防決壊で住宅が浸水被害を受けた十数人が列をつ



倉敷市役所の窓口で応急修理制度の申し込みをする住民ら＝23日午前9時42分

自宅が浸水したさん(74)＝同市真備町辻田

「は「仮設住宅への入居も考えたが、やはり住み慣れた自宅に住み続けたい」と話していた。申し込みは平日午前8時半～午後5時15分に受け付

けた。問い合わせは同課(086-426-3201)。

7月23日 山陽新聞夕刊紙面

西日本豪雨

真備全域で水道復旧

17日ぶり飲用可能に

西日本豪雨で浸水被害を受けた倉敷市真備町地区で、断水していた小田川北区域(約7600戸)の上水道が24日午前9時に復旧し、同地区全域で17日ぶりに水道水が飲めるようになった。(3面に関連記事)

倉敷市水道局によると、この日、飲用水の送水を開始したのは、小田川北区域の川辺、辻田、有井、岡田、市田、市場、尾崎、狭間などに設置していた臨時の給水所5カ所(岡田、岡田、狭間の3カ所と市田真備支所、真備旭ヶ丘団地)は廃止した。市真備支所では水道局の職員2人が午前9時45分ごろから、飲用水が入ったビニール製のタンク2個を搬

去した。真備町地区では、真備浄水場の復旧のめどは立っており、供給量が限られていることから、市に、送配水管2カ所が破損し、7日午後4時までに全区域約8900戸が断水していた。倉敷市水道局は9日以降、別の浄水場から水を供給しながら、水道管の破損箇所を調べる試験通水を順次行い、補修や点検を進めて安全性を確認した。小田川南区域では16日に水道水に顔を洗い、ためらわず

が飲用可能となっている。真備浄水場の復旧のめどは立っており、供給量が限られていることから、市に、送配水管2カ所が破損し、7日午後4時までに全区域約8900戸が断水していた。倉敷市水道局は9日以降、別の浄水場から水を供給しながら、水道管の破損箇所を調べる試験通水を順次行い、補修や点検を進めて安全性を確認した。小田川南区域では16日に水道水に顔を洗い、ためらわず



上水道が復旧し顔を洗う子ども＝24日午前10時1分、倉敷市真備町岡田(今中雄樹撮影)

に水を使えるのがうれし

さん(72)は、孫の君(1)が蛇口をひねって気持ち良さそうに顔を洗い、ためらわず

人的被害	死者	行方不明者	重傷者	軽傷者	避難者	避難所者	避難所数	断水戸数	断水地域
61人	3人	8人	152人	75カ所	2,589人	約540戸	(真備市)		

岡山県内の被害
24日午前9時現在
真備も断水だけ
にしていたが、これからは
人が避難所生活を続けてい
る。県内の死者は前日
までと変わらず、行方不明
者3人。

7月24日 山陽新聞夕刊紙面

「1人じゃない！共に頑張ろう！」。西日本豪雨の被災地を応援しようと、倉敷市真備町地区のボランティア拠点や避難所にメッセージボードが設けられ、支援者からのエールが次々と書き込

まれている。25日も現地へ足を運んだ人たちが、被災者へ寄り添う気持ちをしたためた。

(高松方子、内田貴大) = 2、3面に関連記事

1人じゃない 頑張ろう！



倉敷市真備支所に置かれたメッセージボード。同市真備町地区

西日本豪雨 真備のボランティア拠点や避難所

ボードにエール次々

メッセージボードに思いを記すボランティアの女性。25日午前9時54分、倉敷市真備支所（植木肇撮影）



倉敷市真備支所（真備町真田）に開設されている市災害ボランティアセンター簡易サテライトには、運営ボランティアによって18日「えにボード（縦1・2段、横5・3段）」が設けられた。「いつでも助けます」「必ずココに戻ってきます」福島や群馬、熊本県など全国から訪れた人たちが、励ましやエールのメッセージが、色とりどりのペンで記されている。

25日は午前9時半ごろに被災家の片付けなどを手伝うボランティアが集まり、「笑顔がたくさん見られますよう」「など書き込んだ。自宅

岡山県災害対策本部の25日午前9時現在の被害まとめでは、住宅関係が全壊2827棟、半壊691棟、一部損壊213棟、床上・床下浸水約1万1640棟。新見市で約5400戸の断水は継続中で、2603人の避難所生活も続いている。死者61人、行方不明者8人は前日と変わっていない。

岡山県内の被害

死者	61人
行方不明	3人
重傷	8人
軽傷	152人
避難所	73カ所
避難者	2,603人
断水	約5400戸 (新見市)

25日午前9時現在の

西日本豪雨

食事で被災者を元気に

真備の調理士ら炊き出し



西日本豪雨で被害を受けた倉敷市真備町地区の避難所などで、有志らによる炊き出しが続けられている。避難所では弁当やパンなどが配られているが、食事は偏りがち。そうした状況を踏まえた栄養満点のメニューを用意し、猛暑の中、復旧作業に励む人たちに元気付けている。（2面に関連記事）

夏野菜たっぷりの冷や汁、さっぱりとヘルシーなところてん、メインの牛丼は山芋のころろ入り…。約350人が避難している岡田小（真備町岡田）。25日の昼時、炊き出しのテントに長い列ができた。

料理を振る舞ったのは、美作調理士会倉敷支部のメンバーだ。森成司支部長

（48）は「この暑さの中で家の片付けなどに当たり、疲労しているはず。野菜不足を補い、熱中症予防の塩分も取れるように味付けをあえて濃くした」と言う。避難生活に気を配った料理を味わった。さん

（74）「真備町辻田」は「冷や汁が冷たくて、とてもおいしかった」と笑顔を見せた。

「暑い時季だけに、食中毒を警戒して弁当は使う食材や調理法に限られる。酷暑と復旧作業を乗り切るためにも、ビタミンやミネラルが豊富な野菜を工夫して取ってほしい」と助言。地域住民や県内外のボランティアによる心づくしの炊き出しが、被災地の食を補っている。

避難者約250人の岡田小学校（真備町市場）や同230人の二万小学校（同町上二万）でも、これまでに野菜たっぷりのみそ汁、豚丼、イカめしといった料理が振る舞われた。子ども2

人と園小に避難している女性（45）は「体調維持だけでなく心の栄養にもなる。本当に感謝しています」と喜ぶ。

総社市内の避難所になっている公民館では、岡山県立大（同市）の保健福祉学部が27、31日、8月3、8日に野菜料理を提供する予定。

（山内悠記子、内田貴大、小川耕平）

西日本豪雨被災 真備の小中学校

倉敷市教委

授業再開向け復旧措置



避難先から教科書を受け取りに来た真備中の生徒－真備中

倉敷市教委は、西日本豪雨で被災した真備町地区の小中学校の授業を9月3日から再開するに当たり、復旧までの措置を決めた。浸水被害に遭った児童生徒に教科書を再配布するなど2学期のスタートに向けた準備が進む。一方で、避難者が市内外に分散しており、避難世帯の保護者からは通学手段の確保などに不安の声が上がっている。（重成啓子）

プレハブ校舎完成までの受け入れ先



教科書を再配布 通学手段の確保 保護者不安の声

中学1、2年生向けに、で次々と訪れた。教科書の再配布が始まった25日、真備中学校（同）を受取った同中1生は、市真備町（同）には、生年（13）はを済ませたいと笑顔。生徒たちが保護者の車など「被災した自宅の片付

倉敷市教委は、被災した市教委が、被災した学校の再開を発表したのは19日。伊東香織市長は会見で「被災者が住まいを考える上で、

教科書の再配布は、受験を控えている事情に配慮して中学3年生を優先に19日から開始。中学1、2年生は27日まで、小学生は来週行う予定。受け取りが難しい場合は、教員が避難先まで持参するなどして対応する。

川辺小に通う子どもを持つ会社員さん（33）は「再開時期が決まり、まずは一安心。しばらくは学区外のみなし仮設住宅で生活するが、そのうち真備町地区で自宅を建て直したい」と安堵の表情を見せた。

市教委の計画では、真備町地区の学校の敷地内に9月末までにプレハブ校舎を整備。最初の1カ月程度は水島、玉島地区の小学校の空き教室などを活用する。通学手段としてはバスの送迎を決めた。

このほか、ノートや筆記用具といった学用品は2学期までをめぐり、避難者から調達。真備町地区の学校は臨時休校のまま、夏休みに入ったため、岡山市の実家に避難している女性（43）は「避難所以外で生活している土曜日や放課後を活用して確保することにしている。

コミュニティの中のか。運行ルートや送迎地点までの交通費の後の見通しを早期に示すことが大切」と述べた。

中学2年の孫らと倉敷地区のみなし仮設住宅に引っ越した男性（68）は「バスが近くを通らなければ、孫の意思に反して転校せざるを得ない」と打ち明ける。

7月27日 山陽新聞朝刊紙面

この後、関係機関と調整し、連島西浦小学校→連島東小学校、玉島南小学校→岡山県立玉島高等学校へと変更を行った。



倉敷市真備町川辺の国道486号。12日(右)には家屋から湧き出された災害ごみが山積みされていたが、26日(左)には撤去されていた。



倉敷・真備 国道486号沿い 災害ごみ撤去

26日午前、西日本豪雨で浸水被害を受けた倉敷市真備町地区のうせ、連日の猛暑のためか、地区を上空を飛んだ。被災以降4日目の飛行、1週間前の前回(19日)と比べて災害ごみが目に見えて減った地域で、そうでない所もある。

12日には、同町川辺の国道486号沿いに手付かずで積み上げられていた災害ごみ、白粉などの重機を使った撤去作業により、車の通行を妨げていた家屋などは26日は見当たらなかった。一方で、同町船田の井原線の高架沿いでは山積みのまま、復旧が一朝一夕に進まない現実を物語っていた。

地区内の川の決壊場所近くに1週間前にあった溜のうせな水たまりはもうなかった。薄い茶色の土砂で覆われた田は砂漠のよう。未曽有の豪雨から住民の復旧の足かせとなる酷暑へ、気まぐれに姿を変えうる自然の脅威が、機上からも強く感じられた。(柏谷和宏)

倉敷市真備町

倉敷市7月補正予算の概要

	補正額	内 容
■総務費		
災害ボランティアセンター運営経費	1億8713万円	災害ボランティアセンター運営委託料ほか
被災住宅等環境整備支援経費	1億5004万円	被災した住宅などの清掃などに要する消耗品費ほか
■民生費		
緊急保護資金貸付基金積立金	2000万円	罹災世帯に資金の貸し付けを行うための積立金
保育所代替入所・緊急一時預かり事業	1億7837万円	被災した入所中の児童への代替入所及び一時期 かり経費
災害見舞金支給経費	4億7625万円	家屋の被害の程度に応じた見舞金
災害特別融資利子補給金	1500万円	復旧資金の融資を金融機関から受ける人へ利子 補給金
被災者生活再建支援制度経費	3540万円	制度の申請事務に要する経費
避難所設置運営経費	7億5393万円	食料、空調設備の設置運用、送迎バス借り上げなど
生活必需品支給経費	2億2200万円	被災者が生活に必要な被服、寝具など
災害救助関係経費	2455万円	被災者の救助の経費
被災地防疫関係経費	4378万円	浸水家屋の消毒の経費
罹災証明発行経費	525万円	罹災証明発行の経費
被災住宅応急修理事業	8億7600万円	屋根や上下水道、トイレなど日常生活に必要な箇 所の応急修理
応急仮設住宅設置経費	2億8000万円	仮設住宅50戸の借り上げ費
市営住宅修繕経費	4億5000万円	仮設住宅用の市営住宅150戸の修繕費
児童生徒に対する学用品給付	2543万円	被災した児童生徒への学用品、副教材などの配 布経費
災害弔慰金支給経費	2億6375万円	遺族または重度の障害を受けた被災者への弔 慰金など
災害保護資金貸付経費	35億円	家屋被害の程度に応じ災害保護資金を無利子 で貸し付ける
災害派遣自衛隊受入経費	877万円	災害派遣された自衛隊員の宿泊費など
■衛生費		
産後ケア事業	99万円	被災産婦のケアのため本人負担を軽減するため の経費
災害廃棄物搬去経費	16億5930万円	作業車両借り上げ費、災害ゴミ搬送費、仮置き場 整備費など
■商工費		
中小企業融資事業	5億1160万円	中小企業への利子補助及び保証料補給の経費
■教育費		
小・中学校就学援助事業	1億6569万円	被災した児童生徒対象に制服や体操服などの購 入費支給経費
放課後学習サポート事業	500万円	夏期休業中の中学生への学習支援員配置の経費
■災害復旧費		
庁舎災害復旧事業	6億5685万円	真備支所などの復旧経費
市営住宅災害復旧事業	4億2627万円	市営住宅85戸の復旧経費
消防施設災害復旧事業	1500万円	消防機庫5カ所の復旧経費
学校施設災害復旧事業	27億9216万円	被災学校園の復旧費、仮設校舎借り上げ料、通 学バス運行費など

来月4日受け付け開始

生活再建支援金、市が方針

倉敷市は30日、国の一所で受け付ける。窓口の混雑が予想されるため、市は郵送で受け付け付けを、8月4日から始める方針を明らかにした。

西日本豪雨で家屋が全壊と大規模半壊した世帯などに対象。専用の申請書と罹災証明書、預金通帳の原本の写しなどが必要で、市役所本庁と水島、児島、玉島、真備の各支

市によると、国などの審査を経て全壊世帯に100万円、大規模改修を要する半壊世帯には50万円が支給される。支給は、受け付けから1カ月以上かかる見通し。

(重成啓子)

必要がある経費」(市財政課)。被災状況を調査中の道路や農業施設、社会教育施設の復旧経費は含まれず、今後、関連予算はさらに膨らむのは確実だ。

災害復旧に関する予算調動した。

(重成啓子)

豪雨日本西
倉敷市7月補正予算13億4800万円

復旧費さらに膨張見通し

倉敷市が30日に発表した2018年度一般会計の7月補正予算は13億4800万円。この日会見した伊東香織市長は、西日本豪雨による災害からの復旧への決意とともに、今後関連費用が膨らむ見通しを示し、被害の大きさが改めて浮き彫りになった。（26面関連）

「これだけ大規模な専決処分は、市長は例として来、市長は異例とも言える補正額を発表し、被災者支援策などを公表した。

住まいの確保では、避難所の設置運営費をはじめ、被災した住宅の応急修理に要する経費や仮設住宅と

して提供する市営住宅の修繕費を計上。建設型の仮設住宅では、同市船穂町柳井原に設けた「トレイハウス（50戸）」について、「できれば8月中に完成させたい」と述べた。

「家庭被害の程度に応じて支給する『災害見舞金』は、現行制度（全壊10万円、半壊5万円など）をベースに支給額4億7,600万円を計上。市長は『国の川や水道の復旧、災害廃棄物の移動、学校の今後の方針などを踏まえ、（市の現行制度の）区分けを見直す必要があり、見直しが必要があり、見舞金の増額も検討している』と述べた。

ただ、今回の補正予算で、状況次第で再度

西日本豪雨

倉敷・船穂仮設住宅着工

移動式50戸 月内の入居目指す



着工され、重機を使った整地作業が行われる仮設住宅の建設予定地。3日午前9時14分、倉敷市船穂町井原

倉敷市は3日、西日本豪雨で甚大な浸水被害を受けた真備町地区の被災者向け仮設住宅の建設工事を、近くの船穂町地区で始めた。市が整備するトレーラーハウス（移動式住宅）型の50戸で8月中の完成、入居を目指す。仮設住宅はこれを含め市内5カ所で計200戸が計画され、着工は初めて。（3面に関連記事）

倉敷市によると、同市船穂さんが安心して暮らすこと、船穂町井原の市有地約6500平方メートルを整備する。間取りは1DK、2DKで低床（40戸）と高床（10戸）の2タイプがある。いずれもエアコンや照明、キッチン、トイレ、風呂（一部シャワー室）などを備える。工事は午前9時に始まり、市の委託業者が重機を使って整地するなどした。トレーラーハウスを納入する北海道の業者、佐々木信博さん（50）は「被災者の皆

がんばろう！倉敷・真備
全員の皆さま、ご支援ありがとうございます

4日に業務が一部再開される倉敷市真備支所の西側壁面に掲げられた感謝辞。同市真備町第田



岡山県内の被害

3日午前9時現在

人的被害	死者	61人
	行方不明	3人
	重傷	8人
	輕傷	153人
避難	避難所	66カ所
	避難者	2,252人

船穂）で行っている。時間は午前8時半～午後7時。問い合わせは市公共建築課・公共設備課（086-426-3535）。

一方、倉敷市はこの日、市真備支所（同町第田）が業務を4日から一部再開するのを前に、支所西側壁面に「がんばろう！倉敷・真備 全国の皆さま、ご支援ありがとうございます」と記した感謝辞（縦8メートル、横0.7メートル）を掲げた。同様の感謝辞は他にJR倉敷駅北・南口など7カ所で11枚が順次掲示される予定。三谷育男支所長（56）は「住民の方を長い間お待たせしている。明日からは職員全員で復興に向けて全力を尽くしたい」と語った。（浪速祐彦、内田貴大）



西日本豪雨

避難者3割要配慮

倉敷 高齢や障害634人

西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町地区を中心に同市内の被災者2千人余りが身を寄せている避難所で、高齢や障害、重病などの理由により配慮が必要とされる人（要配慮者）が3割を占めていることが3日、市への取材で分かった。過去の大規模災害のケースから専門家は、避難生活の負担に起因した高齢者らの「災害関連死」対策の重要性を指摘。市などは保健師らによる見守り活動や要配慮者を対象にした公営住宅のあっせんなどを進めている。

関連死防止課題に

倉敷市保健所によると、7月31日時点で、真備町地区の小学校などに開設した避難所計25カ所の被災者2088人（市保健所調べ）のうち、30・4％の634人が要配慮者だった。要配慮者とは、要配慮者の体調を確認するため、避難所に入る倉敷市の保健師2日、同市真備町岡田の岡田小

家族が食事を管理しないと体調が悪化する病気にかかっているといったケースがあるという。

避難生活のストレスによる体調悪化や過労、自殺など間接的な原因で亡くなる災害関連死は大規模な災害で相次いでいる。2011年3月の東日本大震災では3600人以上が関連死と認定された。さらに復興庁の調査では、震災から1年後の12年3月末時点で関連死と認定された約1600人のうち、9割が66歳以上

の高齢者だった。

被災者の健康を守るため倉敷市は、保健師を避難所に派遣し体調確認に当たっている。特に高齢者については市高齢者支援センター（地域包括支援センター）の保健師、社会福祉士、ケアマネジャーが対面調査を実施。市は要配慮者を対象にした公営住宅の提供も続けており、初回の募集（7月18～20日）では、75歳以上の被災者ら5世帯の入居が決まった。ほかにも全国からの応援を含めた医師や

看護師ら医療・福祉の専門家が被災地で活動している。

国立病院機構災害医療センター（東京）の河島護医師は「避難所では、日常生活が制限されることによるストレスや疲労の蓄積、体を動かさなくなると筋力が低下する『生活不活発病』の発病など、心身の状態が悪化するリスクが高い。行政、医療、福祉の専門機関による継続的な支援が欠かせない」と指摘する。

（石井聡）

西日本豪雨

真備以外の避難所再編

来月2日めど 倉敷市方針 2施設に集約

倉敷市が、西日本豪雨の被災者向けに開設している避難所のうち、真備町地区を除く倉敷、水島、玉島、船穂の4地区の10カ所程度を再編し、市内の2施設に集約する方針を固めたことが25日、分かった。小中学校に設けた避難所を2学期の始業に合わせて、可能な限り縮小・閉鎖する狙い。被災者の移動は9月2日をめどとしている。（31面に関連記事）



避難所再編で被災者を受け入れるくらしき健康福祉プラザ（上）と船穂公民館

2施設は、既に避難所として利用しているくらしき健康福祉プラザ（笹沖）と新たに設ける船穂公民館（船穂町船穂）。受け入れ可能人数は、プラザは4階体育館で約50人、公民館は1階会議室や2階研修室などで約70人を想定しており、部屋のレイアウトの工夫などで増やす余地はあるという。現在、プラザ4階に避難している14人は別の階に移動してもらう。阿施設とも、近隣施設を活用しシャワーや風呂をえるようにする。段ボールベッド、エアコン、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジなども利用可能。弁当やパンなどの食事を提供する。市防災危機管理室などによると、25日午前7時現在、4地区では避難所12カ所に

計405人が避難。プラザ以外の11カ所（計391人）は小中学校で、いずれも9月3日まで2学期が始まるため、避難場所の確保が課題となっていた。ただ、11カ所のうち、校内の空き施設を利用できる第二福田小（福田町古新田、85人）など一部避難所は当面閉鎖しない方針という。

市は再編対象となった避難者に、2施設のどちらか

「仕方ない」「時間を」

移動対象被災者 複雑な心境

「学校再開なので仕方がない」「慣れた場所から離れたくない」。新学期開始を控え、4地区の避難所を再編する倉敷市の方針が判明した25日、対象の施設で避難生活を送っている被災者は複雑な心境を口にした。

船穂小（船穂町船穂）に身を寄せる

（73）真備町箭田は「避難所では同じ境遇の人と新たなつながりが生まれている。別の避難所からどんな人が来るかも分からない」

と移動時期の延長を訴え、アンケートを行っていた。結果を基に、避難者の割り振りや移動時期を詰める。

市市民局によると、真備町地区の避難所4カ所（避難者計384人）は当面継続。総社市内にある倉敷小（同194人）は今後、集約を目指すという。（石井聡）

一方、新たに被災者を受け入れるくらしき健康福祉プラザに避難する

（82）真備町川辺は「同じ地元で被災した仲間同士なので、助け合いの気持ちで迎えたい」と話した。（豪雨取材班）

西日本豪雨・真備の小中

仮校舎、校内に避難所、バス登校

爪痕残る中新学期

7月の西日本豪雨で被災した倉敷市真備町地区の小中学校が3日、2学期の始業式を行った。各校は7月6日から臨時休校になり、そのまま夏休みに入っただけ再開は60日ぶり。式はプレハブ校舎が完成するまでバスで通う仮校舎で行われたり、体育館が避難所になっていることから校内放送で対応したりするなど、通常とは異なる形となったが、被災地の学校生活が本格的に再スタートした。（3面に関連記事）



始業式の後、箱田小（右）と玉島小の児童が顔を合わせたよ
ろの会。3日午前9時25分、玉島小



校舎の2階まで浸水した小（同市玉島阿賀崎）で行
箱田小（同町箱田）は、約10分、バス登校した児童は、
10分、南にある仮校舎の玉島（教室のバルコニーから手を

振る玉島小児童やバスの乗
降口に並ぶ同小PTAらの
歓迎を受けて元気よく校内
に入り、午前8時50分から
多目的ホールで行われた始
業式に臨んだ。

被災後に18人が転校し2
68人となった全児童を前
に、大崎早己校長が「たく
さんの人からの応援や励ま
しの気持ちに込めるために
も災害に負けず、力いっぱい
生活してほしい。自信と
誇りを持ってすばらしい2
学期にしましょう」と呼び
掛けた。

この後、体育館で始業式
を終えた玉島小児童約38
0人と合流し、よろしくの
会を開催。同校の児童が向
かい合って座り、互いに校
歌を歌い、顔を合わせた。
代表であいさつした箱田
小6年安藤温佳さん（12）は
「いつもより2倍の数なの
で緊張した。今まで通りと
はいかないけど、勉強の遅
れを取り戻し、一人でも多
く友達をつくりたい」と話
した。

同市教委によると、真備
町地区から外部の仮校舎に
向かったり、地区外から元
の学校に登校したりする児
童生徒のため、同町内外を
結ぶ通学バス35台を3日か
ら運行。6小中の約1200

通学バスに乗り込むため始業
並んだ児童ら。3日午前7時2
分、福祉市武道館

0人が利用するという。

バス始発点の一つ・福祉
市武道館（同市真備）には
午前7時ごろから、保護者
の車に乗った児童や自転車
の生徒らが続々と集まり、
指定されたバスに乗り込ん
だ。

この日、真備町地区を除
く倉敷市内の58小でも始業
式があった。

（重成啓子、伊丹友香）

真備の小学校再開

避難所と“共存”模索

西日本豪雨で被災した倉敷市真備町地区で、避難所になっている市立岡田小（岡田町岡田）、岡小（岡田市場）、二万小（岡田上二万）も3日、2学期を迎えた。児童らは、避難者が生活する体育館や代わりの音楽室などで始業式に臨み、各校では避難所との“共存”を模索しながらの学校生活が始まった。（1面関連）

児童、避難者 互いに気遣う



避難所の段ボールベッドが並ぶ体育館で始業式に臨む岡田小の児童ら
＝3日午前9時20分

「避難者の方も不自由な」の気遣いを大切に過ごして生活がされており、周囲へ「ほしい。当たり前」の日常の生活に近づいてほしい。被災した45人が避難している岡田小の体育館。半分は段ボールベッドが埋められ、高津小学校長はステージから児童240人に呼び掛けた。

同小は事前に始業式などの学校行事を避難者に伝え、協力を要請。スクールバスの到着が間に合わず、25分遅れで始まった始業式では、児童らが首を立てないよう気を配りながら体育館に入り、居合わせた避難者も静かに過ごした。妻と生活している男性（81）「岡田川辺」は「学校は子どもたちの場なので、再開を受け入れるのは当然。チャイムの音が気になるが、慣れない」と話した。

体育館に125人が避難している岡田小は、児童2

16人が各教室で放送による始業式に臨んだ。新学期に伴い、同小運動場にあった学校周辺の被災者向け食の配給所は、近くの市立備ふるさと歴史館に移転。避難者の駐車場と、児童の運動スペースを半分ずつ確保し、安全のため、境界に可動式ネットを設けた。

二万小では、避難者74人がいる体育館は使わず、児童91人が出席して音楽室で始業式。11月9日に市内で開かれる学校音楽祭の練習も音楽室で行う予定。運動場も、岡田小の仮設校舎の建設工事が進み、当面使えないため、体育は教室でのストレッチなどを検討している。不審者対策として、避難者が外出する際はネー

ムカードを携帯してもらい、警備員がチェックする取り組みも始めた。仮設校舎の完成まで、二つの小学校が同居する学校では、共存の機会を前向きに捉える動きもある。川辺小の児童を受け入れた連島東小（岡田連島町連島）は、6年生対象の陸上記録会の練習を合同で行う計画。運動場を共有しつつ、学びの相乗効果を狙う。

同市教委指導課は「不自由な面もあるが、いつもの学校生活に近い環境を提供できるよう、避難者の理解を得て、学校や保護者と一緒に頑張っていきたい」としている。（山内悠記子）

倉敷市船穂町柳井原で整備されたトレーラーハウス型の仮設住宅



建設型仮設 入居始まる

倉敷の団地 51戸を引き渡し

西日本豪雨の被災者用の建設型仮設住宅が8日、岡山県内で初めて、倉敷市船穂町柳井原の団地で入居者に引き渡された。倉敷、総社市で整備される312戸のうち51戸が対象で、残りも10月までに被災者に渡る。

西日本豪雨

51戸は自動車で運搬できるトレーラーハウス型で、比較的早く整備できた。世帯人数に応じて1DK（18平方メートル）から3DK（36平方メートル）までさまざまなタイプ



伊東市長から鍵が入った封筒を受け取る入居者（右）

が用意され、いずれも台所、浴室、トイレを備えている。団地は倉敷市有地（約6500平方メートル）を活用した。この日午前9時すぎ、伊東香織市長が団地内に新設した集会所で「少しでも腰を落ち着けて、将来のことを考えていただける場所になれば」と話し、入居世帯に鍵を手渡した。市職員は設備の取り扱い方や、長期間不在にする際は届け出が必要であることを説明した。

入居者は早速部屋の中に入り、備え付けのカーテンを開けたりコンセントの位置を確認したりした。同市真備町辻田の自宅が浸水で全壊し、岡田小学校（同町岡田）の避難所から夫婦で引っ越す。

は「避難所のスペースと比べると広く、プライバシーも守られていてうれしい。生活再建に向けて頑張ろうという気持ちになる」と語った。

建設型仮設住宅は、災害救助法に基づき岡山県が、倉敷市の真備町、船穂町地区の6カ所計266戸、総社市の2カ所計46戸を岡市と協力して整備。51戸のほかには、真備町上二万の25戸（9月16日）と同町箱田の80戸（同21日）（石井聡）

来年7月までに搬出

倉敷市 公費解体20年3月
実行計画

災害ごみ1次仮置き場

倉敷市は18日、西日本豪雨により市内で発生した災害ごみの処理実行計画をまとめた。同市真備町地区などに設けた1次仮置き場からの搬出を2019年7月までに、被災家屋の公費での解体を20年3月までに終わるとしている。(33面関連)

市内の年間排出量の環境保全事業団水島1・3倍に相当する22処分場(同市水島川崎通)の2次仮置き場(11万6千トンのごみが発生すると推計。処理に当

西日本豪雨

たつては、同市真備町、玉島地区内の小中学校や公園など11カ所に設けた1次仮置き場(計12・2秒)と、県

管を実施。その後、種類に応じて焼却やリサイクル、埋め立てを行う。

1次仮置き場に続いて、2次仮置き場も20年7月までにごみを搬出し閉鎖する。どちらもごみの保管に伴う土壌への汚染がないか確

認し、必要があれば土壌を復元。災害ごみの内訳は、



1次仮置き場に集められた大量の災害ごみ
11日、倉敷市玉島乙島

家屋解体によって生じるコンクリート片やガラスなど約16万8千トンの家屋解体前の片付けで発生する木くずや不燃物など約4万3千トンの土砂の混じったがれき約1万5千トン。

処理の実施主体は市だが、市の通常のごみ処理が滞る恐れがあるため、家屋解体による廃棄物を中心に約20万トンは県が代行処理する。

市災害廃棄物対策室は「計画に基づき、大量の災害ごみを迅速かつ適正に処理したい」としている。

(石井聡)

プレハブ校舎 授業開始

倉敷・真備の2中学校



スクールバスで到着しプレハブ校舎に入る真備中の生徒＝1日午前8時23分、真備東中グラウンド

3カ月ぶり気持ち新たに

西日本豪雨で浸水被害に遭った倉敷市真備町地区の真備、真備東中学校のプレハブ校舎が、真備東中のグラウンドに完成し、1日、授業が始まった。生徒たちは2学期が始まってからも同町地区外の施設を仮校舎として使っており、7月5日以来約3カ月ぶりとなる地元での学校生活に気持ちを新たにしている。

豪雨

2中のプレハブ校舎は、いずれも新築で1棟ずつ整備した。真備東中（生徒数約390人）は現校舎（4階建て）の2階以上が被災を免れたため、普通教室はこれまで通り使用。プレハブ校舎（延べ約1400平方メートル）には、調理室や被服室などの特別教室を配した。真備中（同約2400平方メートル）には普通教室の配置について説明を受けた。真備東中の生徒は校舎や職員室を配置し、特別教室を清掃した。

被災者の生活状況把握 倉敷市と総社市 見守り、相談事業始める

倉敷、総社市は1日、西



倉敷市真備支援センターの看板を設置する伊東市長（左）ら。市真備町町田



被災者を訪れ、生活状況を把握する市真備支援センターの職員。市真備町

真備中3年（14）は「倉敷三輪科学大の

仮校舎では暑く、通ったが、朝早く家を出るのが大変だった。一日も早く慣れた環境に集中したい」と話した。

2中の現校舎は、2020年3月までに改修が完了する予定。（重成啓子）

日本赤十字社の見守りや相談に関する事業をそれぞれ始めた。社会福祉士らが生活環境が変わった被災者の住まいを訪れ、生活状況を把握。被災者の健康を守ることも、孤立化を防いで地域の「コミュニティ」を育てる。倉敷市は真備支所（同市真備町新田）に設けた「市真備支援センター」、総社市は市社会福祉協議会（同市中央）内の市復興支援センターが担当。仮設住宅などで生活する被災者から暮らしの悩みを聞き取り、地区民が集まるサロン開催を計画したりする。

倉敷市はこの日午前、伊東市長（左）らと市真備町町田、東倉敷市長や佐賀雅宏さん（右）夫妻を訪れ、生活状況を把握する市真備支援センターの職員。市真備町

真備町地区では、校舎が浸水した川辺小と船田小の児童も地区外の施設に通っており、川辺小児童は地区内の船田小、船田小児童は二万小に整備するプレハブ校舎で9日から授業を受ける予定。（重成啓子）

活の悩みなどを聞いた。当時は社会福祉士や精神保健福祉士の資格を持つ職員5人が被災者を助ける。倉敷市では西日本豪雨による浸水被害で真備町地区を中心に5400棟余りの住宅が全半壊。3千余りの世帯が地区内外の仮設住宅に移り住むことが決まっている。総社市では9月27日現在、123世帯247人が避難生活を送っている。（石井聡、柏谷和宏）

西日本豪雨で浸水被害に遭った倉敷市真備町地区の箭田、川辺の2小と真備陵南高のプレハブ校舎が同町地区内に完成し、9日、授業がスタートした。2学期が始まってから地区外の施設に通っていた児童生徒が地元で学

校生活を送るのは約3カ月ぶり。1日から地区内で授業を行っている2中学校と合わせ、被災した市立全5小中高の児童生徒の笑顔がまちに戻ってきた。(7、30、31面に関連記事)

真備で授業 笑顔再び

3小高 プレハブ校舎使用開始



西日本
豪雨

箭田小は二万小、川辺小は備陵南高は現校舎(3階建て)は箭田小にプレハブ校舎を1棟ずつ整備。両小とも普通教室や職員室を配し、音楽室などの特別教室は二万小の教室を共用する。真備1棟に職員室や特別教室を配置した。

15分
箭田小の敷地内に建てられたプレハブ校舎に登校する川辺小児童(9日午前8時

の児童との歓迎会もあり、両小の代表者が一緒に勉強したり遊んだりするのが

この日、バスや自車で元気よく登校。箭田小(児童数268人)の児童はプレハブ校舎で自分の机を確かめた後、教室に入り、担任から教室の配置の説明を受けた。二万小(同92人)の児童との歓迎会もあり、両小の代表者が一緒に勉強したり遊んだりするのが

楽しみ「友達をたくさんつくりたい」とあいさつし、校歌を披露し合った。箭田小6年(12)は「真備に戻れてうれし。卒業まで残り少ないので、勉強に集中したい」と話した。

川辺小(同277人)は授業前に箭田小(同239人)の体育館で全校朝礼。川辺小の本多卓郎校長が「この

2小の避難者ゼロに

二万、箭田の体育館に開設されていた避難所は、箭田、川辺の2小のプレハブ校舎が完成したのに伴い、8日までに避難者がゼロになった。倉敷市によると、二万小の避難所は8日、最後の18世帯41人が退所し、仮設住宅や別の避難所に移ったという。箭田小の避難所は1日からゼロになっていた。

(重成啓子)

倉敷・真備

復興に被災者の声を

治水や避難所計画策定へ懇談会開始



倉敷市真備町地区で始まった「復興懇談会」

倉敷市は3日、西日本豪雨で甚大な浸水被害に見舞われた真備町地区の復興計画策定に向け、地元住民らの意見を聞く「復興懇談会」を始めた。伊東香織市長が出席し、治水対策や避難場所などに関する質疑に応じた。市が被災者を集めて対話の場を設けたのは初めて。

西日本豪雨

懇談会は、同地区に七つある住民組織のエリアごとに10日まで順次、市真備保健福祉会館（同町箭田）で開催。初日は二万と岡田エリアが対象で、各約40人が出席した。

伊東市長が被災家屋や中小企業、農業者への支援策を説明した後、質問や要望

を受けた。住民から「避難所になった岡田小には一時約2千人が詰め掛けた。避難場所を見直してはどうか」「国が行う小田川と高梁川との合流点の付け替え工事など」治水対策の進捗を定期的に教えてほしい」といった意見が上がると、伊東市長は隣接する自治体と連

携するなどして避難所を見直す考えを示すとともに、治水に関して引き続き国へ要望することを強調した。また、市は13日から始める公費解体について、仮設住宅の入居期間（最長2年）を見据え、被災者が建て替えた住居にスムーズに戻れるよう、申請のあった全ての解体を2019年9月末までに完了させる計画を明らかにした。申請件数は1日現在850件。

自宅が全壊し、総社市内のみなし仮設住宅で妻と暮らすさん（75）は「同町辻田は終了後、真備は住みやすい場所。安全対策を一つずつクリアし、再びにぎわいのあるまちにしたい」と期待を口にす一方、男性（68）は岡田は「自分の生活のことで精いっぱい。復興計画を考えるまで頭が回らない」と話した。

復興計画は同町地区全域が対象。生活再建や治水対策、事業・営農の再開、都市基盤整備といった主要施策と具体的な取り組みをまとめ、19年3月末までに策定する。計画の大枠となる「復興ビジョン」は12月中旬に公表する予定。

（重成啓子）

復旧へ治山事業説明

土砂崩れ被害
倉敷市広江地区
県と市概略示す

豪雨

西日本
県と倉敷市は14日夜、西日本豪雨で山が崩れ、複数の家屋が壊れた倉敷市広江地区で復旧計画の説明会を開き、治山事業の概略を明らかにした。

コスモタウン広江団地(約230世帯)内

の集会所であり、住民63人が出席した。備中県民局の担当者が、2019年9月の完成を



倉敷市広江地区の災害復旧計画に関する県と市の説明会

地との境から16m山側に高さ7mの治山ダム1基を整備するほか、19年度以降、階段上に3基追加する構想などがあることを説明。市水島支所の担当者は、県の事業に

住民から「治山ダムの高さの根拠は」「4基全部が完成する時期は」といった質問が出た。県は「基本的に1基整備するのに約1年かかる。予算確保を含まれる。速やかに対応する」と答えた。豪雨やその後の相次ぐ台風で4回避難したという男性(70)は「精神的にも肉体的にも参った。土砂が約500mにわたって崩れ落ち、2世帯が全壊、4世帯が半壊した。(重成啓子)」

真備コミュニティタクシー

来年1月に全面再開

支援終了
復興バス

倉敷市は20日、西日本豪雨後に運行を一部休止している乗り合いの「真備地区コミュニティタクシー」が来年1月、全面再開すると明らかにした。再開に合わせ、地区を巡回する「まび復興支援バス」は役割を終える。二万と船穂公民館(同町上区と川辺宿駅(同町川



「真備地区コミュニティタクシー」の4路線
●来年1月再開
東ルート
西ルート
南ルート
(吉備真備行き)
●すでに再開
南ルート
(船穂公民館行き)

11月16日 山陽新聞朝刊紙面

月4日をめぐりに再開する方針だ。料金(大人300円)や運行日時は被災前と同じ。この日の市議会建設消防委員会でも説明した。(石井聡)

11月21日 山陽新聞朝刊紙面

倉敷市は21日、西日本豪雨で甚大な浸水被害を受けた真備町地区の復興施策などを盛り込む「真備地区復興計画」の策定に向

けた委員会を設置し、同地区内で初会合を開いた。委員会は計4回の会合で計画案を取りまとめ、2019年3月に市へ答申する。

倉敷市計画策定へ 委員会が初会合



「真備地区復興計画」の策定に向けた委員会の初会合

真備町地区のまちづくり推進協議会の各地区会長をはじめ、学識経験者や地元の人々、ラフの代表ら20人で構成。委員長は三村聡岡山地域総合研究センター長、副委員長は奥田隆志岡協議会副地区会長が務める。

市は委員会の設置に先立ち、真備町地区のエリアごとに住民対象の「復興懇談会」を開き、地集約化を進めることを見直して住民が利用しやすいように、農業の振興に向けて話をした。

三村委員長は終了後、「市民の意見を取り入れながら議論を進め、まちづくりの新たなモデルとなるような計画を策定したい」と話した。

次回会合は12月に開催する。（中原由華）

真備復興住民ら議論

11月22日 山陽新聞朝刊紙面

西日本豪雨5ヵ月

家屋公費解体申請1100件

岡山県内11市町 倉敷が9割

西日本豪雨で被災した家屋を自治体が住民に代わって解体撤去する「公費解体」で、岡山、倉敷、総社市など岡山県内の11市町が制度を設け、計1100件（4日現在）の申請を受け付けていることが5日、各自治体への取材で分かった。赤磐、真庭市は今後受け付ける予定。既に解体を終えた自治体もあるが、大半の市町では年明け以降に工事が本格化する見込みだ。（1面関連）

公費解体は廃棄物処理法に基づき、市町村が国の補助を受けて被災家屋を取り壊す。西日本豪雨の被災家屋は半壊以上が対象となっており、個人負担は少ない。

申請受付件数は、トップの倉敷市が全体の9割に当たる969件。総社市73件、岡山市19件、高梁市16件と続く。笠岡、玉野市など7市町は7〜11件。赤磐市はこれから詳細を詰め、真庭市は12月定例市議会での補正予算議決などを経て受け付けを始める予定。

解体を終えたのは青園中央町の4件のみで、他の自治体は現地調査や入札手続などを進めている。年明け以降の工事着手を見込む高梁市の担当者も「通常の公共工事と異なり、手

申請受付件数は、トップの倉敷市が全体の9割に当たる969件。総社市73件、岡山市19件、高梁市16件と続く。笠岡、玉野市など7市町は7〜11件。赤磐市はこれから詳細を詰め、真庭市は12月定例市議会での補正予算議決などを経て受け付けを始める予定。

自治体	申請受付件数(4日現在)
倉敷市	969
総社市	73
岡山市	19
高梁市	16
笠岡市	11
玉野市	11
赤磐市	7
真庭市	7
青園中央町	4
合計	1100

続きに時間を要する」と話す。11月13日に着手した倉敷市も、解体が完了したケースはまだない。市災害廃棄物対策室は「来年9月末までに全ての工事完了を目指す」としており、計画的に実行し

「費用負担」の申請は11市町が受け付けており、真庭市は今後受け付けている。4日現在の総数は420件で内訳は倉敷市380件、総社市14件、井原市7件、岡山市、笠岡、高梁市が各5件となっている。（河内慎太郎）

12月6日 山陽新聞朝刊紙面

「支え感謝」「経験生きる」



避難者がゼロになったまきび荘で片付け作業を行う倉敷市職員＝13日午前10時8分

倉敷市運営避難所ゼロ

西日本豪雨

「支えがあったかった」「つらい経験だが、今後の災害では生きる」。倉敷市が13日、運営する最後の避難所を閉鎖し、岡山県内の避難所がほぼ解消された。被災者や支援者らは、不安を抱えながらも懸命に過ごした日々を振り返り、感謝を口にした。（石井聡、福本尚純）＝1面関連

最後の避難者が退所した倉敷市真備町市場の老人福祉センター。まきび荘では、市職員が段ボールベッドなどを片付けた。同避難所運営の岡田小に避難し、現在はまな立場の人が県内外から駆け付け、力を合わせて被災者を支援。被災者が互いを励まし合う姿も多く見られた。

被災者 懸命に過ごした5カ月

「地域にとってはつらい経験だったが、絆は深まった」。真備町岡田地区のまちづくり推進協議会の黒瀬正典会長（65）は、避難所で生まれたコミュニティを前向きに語った。炊き出しや物資の支援を行った倉敷青年会議所の三木浩一朗理事長（40）は「手探りしながら支え合った経験は、南海トラフ巨大地震など将来大災害が発生した場合に必ず生きる」と強調。「真備町の復興は緒に就いたばかり。住民が戻って来なくなるような支援を続けたい」と語った。

12月14日 山陽新聞朝刊紙面

全学区に緊急避難場所

倉敷市 真備復興ビジョン案

西日本豪雨

倉敷市は20日、西日本豪雨で被災した真備町地区の復興計画策定に向け、住民や学識者が話し合う委員会の第2回会合を市内で開き、計画の大枠となる復興ビジョン案を示した。同町地区の6小学校区全てに洪水時に緊急避難できる場所を設ける施策などを掲げている。

案では「豊かな自然と歴史・文化に包まれた真備、安心・きずな・育みのまち」

を基本理念とし、官民協働で災害に強いまちをつくり、産業の再興などを目指す方針を打ち出した。緊急避難場所の確保のほか、住宅の自力再建が困難な被災者向けの災害公営住宅新設や、住民主体の地区防災計画の作成といった施策を盛り込んでいる。

緊急避難場所の確保は、洪水に対応した避難場所が3学区（川辺、箭田、呉妹）にない現状を改善する狙い。会合で伊東香織市長は「命を守る身近な場所として、皆さんが分かりやすい学校などを相定している」と説明した。委員からは「早急に決定を」「平地にある学校だけでは不安」といった声が上がった。

12月21日 山陽新聞朝刊紙面

避難所確保や治水対策

五つの方針 復興ビジョン発表

倉敷市は27日、西日を盛り込んだ。本豪雨で甚大な被害を受けた真備町地区の復興に向け、基本理念や主要施策をまとめた「復興ビジョン」を発表した。緊急避難場所の確保、治水対策、災害公営住宅の整備などの方針を示している。

倉敷市は27日、西日を盛り込んだ。本豪雨で甚大な被害を受けた真備町地区の復興に向け、基本理念や主要施策をまとめた「復興ビジョン」を発表した。緊急避難場所の確保、治水対策、災害公営住宅の整備などの方針を示している。

避難所と合わせると、区内の6小学校区全てで避難場所が確保される。

治水対策では同地区で市が管理している大武谷、背谷、内山谷の3河川で、川底にたまった土砂を取り除き流下能力を高める工事を実施。来年の梅雨期までに完了させるとした。市はビジョンを核とし、19年3月までに復興計画（19年度から5

力年）を策定する。伊東香織市長は27日の記者会見で「来年は復興に向け本格的に取り組む、進んでいく一年になる。被災者とともに頑張りたい」と述べた。（石井聡）

12月28日 山陽新聞朝刊紙面

災害住宅整備20年度末

倉敷市 真備復興計画の素案

倉敷市は30日、西日針に沿った主要施策を本豪雨で被災した真備町地区の復興計画（2019～23年度）素案をまとめた。住宅の自力再建が困難な被災者のための災害公営住宅の整備目標を20年度末とするなど78項目の具

豪雨 西日本

体的な取り組みとスケジュールを盛り込んでいく。（30面関連）

素案では、昨年12月公表の復興ビジョンで掲げた「災害に強い」「住み続けられる」な

復興計画素案の主な内容

具体的な取り組み	年 度				
	2019	2020	2021	2022	2023
倉敷市管理の3河川（大武谷川、背谷川、内山谷川）改修事業					（～20196）
緊急避難場所の指定					（～20196）
避難所運営マニュアルの見直し					（～20209）
災害公営住宅の整備					
7幼小中高の復旧					
農地の復旧					
農業基盤施設の復旧					
小田川河川敷への親水空間整備					

復興計画素案の主な内容

経路にある水路への転落防止対策を」「家屋の修復に当たっては、浸水しても復旧しやすい建物の整備を優先してはどうか」といった意見が上った。

市は意見を踏まえて素案を修正し、2月8日から3月4日までのパブリックコメント（意見公募）を経て同月末までに計画を取りまとめる。（重成啓子）

平成31年1月31日 山陽新聞朝刊紙面

地域出向き児童館活動

倉敷市、専用車両6台導入

「おでかけ児童館」事業で、大きな円形の布「パラバルーン」を使って遊ぶ子どもたち



倉敷市内の児童館・児童センターに導入した「おでかけ児童館号」

倉敷市は、放課後子ども教室など連携し、市と銘打って公民館や市内の各地域に出向いて児童館活動を行う「おでかけ児童館」事業を始めた。専用車両6台を導入し、よりニーズに応じて活用する専用車両という。昨年12月からスタートし、初回は呉妹小(同市真備町)で実施。車両は「おでかけ児童館」の名称で、市内の全6児童館・児童センターへ1台ずつ配備。要望のあった団体やイベントなどに合わせて内容を調整して出張する。これを機に、児童館の役割をさらに広げ、子どもたちの居場所づくりを推進する。

子どもの居場所づくり

市子育支援課は「学校などと連携して顔の見える関係をつくり、子どもの居場所づくりにつなげていきたい」としている。車両にあしらったデザインは、倉敷芸術科学大学の学生が考案。紙飛行機や風船が遊ぶ子どものイラストに「おでかけ児童館」と添えている。同事業への問い合わせは倉敷北児童センター(086-422-1653)。(中原由華)

平成31年2月1日 山陽新聞朝刊紙面

真備町地区の公共施設の復旧スケジュール

施設名	年度
7校園(川辺幼、箭田幼、川辺小、箭田小、真備中、真備東中、真備陵南高)	~2020.3
真備図書館	~2021.1
真備公民館(6分館含む)	~2019.7
マービーふれあいセンター	~2020.12
真備健康福祉館(まびいきプラザ)	
真備児童館	~2020.3
児童クラブ(川辺、箭田)	~2020.3
まきびの里保育園	
市真備支所	~2019.4
玉島消防署真備分署	~2019.7
真備人権ふれあい館	~2020.3

倉敷市は、西日本豪雨で被災した真備町地区にある18の公共施設の復旧スケジュールをまとめた。4月の市真備支所を皮切りに、2021年度中に全ての工事を完了させる計画。まきびの里保育園は現敷地内で建て替える方針を固めた。主な施設の復旧時期は、真備公民館(6分館を含む)が19年7月、7校園(川辺幼、箭田幼、川辺小、箭田小、真備中、真備東中、真備陵南高)と真備児童館が20年3月、文化施設のマービーふれあい館が21年1月、真備図書館が21年1月など。

21年度中に完工

まきびの里保育園 現敷地で再建

センターが同12月、真備図書館が21年1月、被災園舎を解体し、レハブで保育を再開し、まきびの里保育園と、真備健康福祉館(まびいきプラザ)にびいきいきプラザ)については、現時点で具体的な復旧時期は決まっていないが、21年秋までの完了を目指すという。市は大半の施設に各施設の復旧時期を示した一覧表は、3月末までに策定する同町地区の復興計画に載せる予定。市が今月8日からパブリックコメント(意見公募)を始める計画案にも示される。(重成啓子)

平成31年2月7日 山陽新聞朝刊紙面

小田川堤防を拡幅

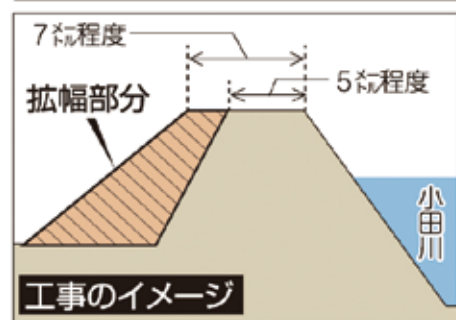
倉敷市方針 国の改修に上乗せ

西日本豪雨

倉敷市は8日、西日本豪雨で決壊した真備町地区の小田川堤防で、国の改修と連携し、拡幅工事を手掛けることを明らかにした。堤防の強度を高める安全対策を上乗せすることで、真備に安心して住み続け、地区外に避難している住民も戻りやすくする。(3、28面)

〔関連記事〕

対象は高梁川との合流点から上流約7・2キロの両岸(一部区間を除く)。計画では、流れをスムーズにするため国が行う高梁川、小田川の川底掘削で生じた土砂を使い、堤防の上部の幅を現在の5メートルから7メートルに広げたり、外側ののり面の勾配を緩くしたりする。今後、移転が必要となる家屋の戸数を調査する。



堤防上部は市道で、災害



時の緊急車両の通行を確保するほか、避難路に活用で

きるようにする。2019年度にも着工し、21年度末の完了を目指す。

この日発表した19年度一般会計当初予算案に土地購入費や測量設計委託料5億5900万円を計上した。伊東香織市長は「真備の皆さんが戻りたいと思える後押しになれば。(地権者など)関係者には協力をお願いしたい」と述べた。

小田川は豪雨で、高梁川との合流地点から3・4キロと6・4キロの左岸2カ所で堤防が決壊し、同町地区に甚大な浸水被害をもたらした。国による本復旧工事は6月末の完了を予定している。(重成啓子)

倉敷市19年度当初予算案

基金大幅取り崩し

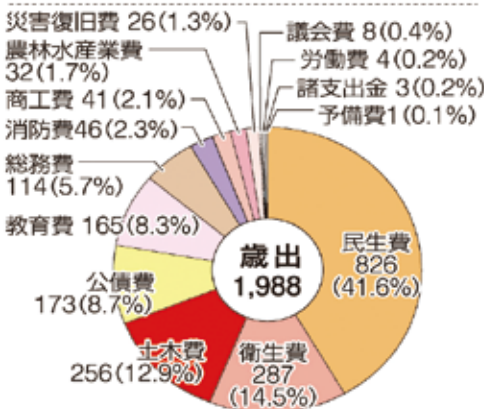
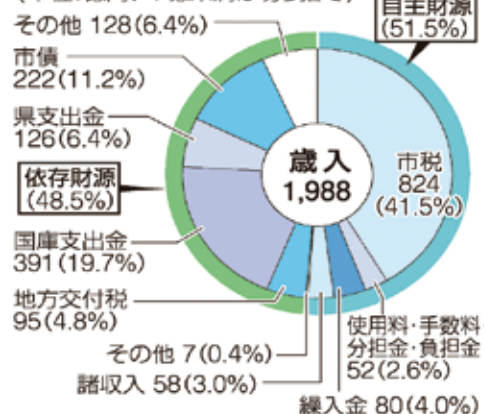
豪雨関連の歳出膨らむ

倉敷市が8日発表した2019年度一般会計当初予算案は、西日本豪雨に關係する歳出の伸びを受け、過去最大の1988億900万円となった。一方の歳入は、景気回復などに伴う市税の増加や、災害復旧による国庫支出金の増額を見込むほか、財源不足を補ったため貯金に当たる基金を大きく取り崩して確保した。（一面関連）

歳入

全体の約4割を占める市税は、18年度比1・5%増の824億3600万円。このうち市民税は、景気の回復傾向により法人分で7・2%増の58億7100万円を見込んだ。個人分は被災に伴う所得控除を想定し、1・4%減の242億6900万円とした。

倉敷市の2019年度一般会計当初予算案
(単位:億円、1億未満は切り捨て)



復旧の事業実施に伴い、19・5%増の391億3100万円。基金は「財政調整」

の46億7400万円の72・7%増▽「清掃施設整備」の8億円(166・7%増)▽「災害復興」(18年9月創設)の6億5千万円などを活用する。基金などの繰入金は76億1000万円に上った。

歳出

・5%増の80億4200万円に膨らんだ。豪雨に關係する経費は136億5500万円に上り、歳出が増える要因となった。

歳出を目的別に見ると、災害廃棄物の処理にかかる経費などで衛生費は42・8%増の287億4900万円。被災で損壊した小中学校や幼稚園、保育所、橋、農業施設の修繕といたった災害復旧費は26

真備中心に復興最優先

解説

倉敷市が「復興元年」と位置付ける2019年度の当初予算案。西日本豪雨で甚大な被害に遭った真備町地区を中心とした市域の復旧を最優先とした積極編成となった。

学校施設の復旧や住宅再建支援、災害に強いまちづくり対策などに重点的に配分した。特筆すべきは同町地区を流れる小田川の堤防強化だ。国が進める治水事業に、市も連携して拡幅工事を上乗せするという異例とも言える事業。伊東香織市長は会見で「安全性を高める市の施策を見

向が続く。懸案となっていた待機児童解消を目指す待機児童解消の整備、介護保険料の上昇抑制を図る特別会計への繰り出などで、3・7%増の826億1200万円となった。(石井聡)

て、(地区外にいる被災者には)真備に戻ってくるような計画を立ててほしい」と訴えた。災害復興がメインとなる中、他の事業に目を向けると、教育・子育て分野で新規や拡充が目立つ。また老朽化した市有施設の更新を計画的に進め、観光客誘致にも取り組む方針という。予算規模が過去最大となったことについて、「復興を優先的に進めながらも、市民サ

(重成啓子)

復旧した真備公民館服部分館。駐車場では
うこんやお好み焼きが振る舞われた



真備公民館服部分館の修繕完了

西日本豪雨で浸水被害を受けた真備公民館服部分館（倉敷市真備町服部）の修繕工事が終わり、20日、現地で住民主催の記念行事が行われた。自宅を離れて市内外の仮設、みなし仮設住宅などで暮らす約150人が集まり、「地域のよりどころ」の復活を喜んだ。（安部晃将）

がんばろう
岡山

西日本豪雨

「地域の拠点」復活

服部分館は鉄骨平屋約200平方メートルで、集会所、和室、調理室を備える。市民講座や夏祭り、町内会の寄り合いなどで利用されてきたが、豪雨で屋根まで水没した。自宅が被災して地区を離れる人が相次ぐ中、コミュニティの拠点施設の再興を急ぐと市職員が奮闘。ボランティアの力も借りて泥かきなどを進め、建物の骨組みを残してリニュアルした。総事業費約2800万円。



プロ奏者による演奏会で優雅な調べに聞き入る参加者

記念行事 住民ら150人集う

抱き合って喜ぶ姿も

屋台が駐車場に並び、館内では茶席やプロ奏者による琴の演奏会が開かれた。新しくなった分館の前に、笑顔で談笑したり、抱き合ったり再会を喜んだりする姿も見られ、同町服部の親族宅に身を寄せ、さん(70)は「仲間と集える場所が整い、本当にうれしい。復興へ大きく前進した気分です」

と話した。

市などによると、真備町地区にある真備公民館本館と8分館（服部、川辺、岡田、園、二万、箭田、呉妹、辻田）の全9施設のうち、園、二万分館以外の全施設が豪雨で被災。20日時点で復旧したのは服部と箭田分館で、その他は今年春から秋ごろを目指している。

小田川堤防強化9月着工

国、県、倉敷市 真備で説明会 上部広げ避難路に

西日本豪雨災害を受け、国と県、倉敷市は18日、甚大な浸水被害に遭った同市真備町地区での堤防整備に関する初の合同説明会を、市真備支所（同町箭田）で開いた。国は、市と連携して行う小田川の堤防強化工事に9月から着手するスケジュールを明らかにした。

対象区間は、高梁川との合流点から上流約7・2キロまでの両岸（一部除く）。小田川や高

西日本豪雨

梁川の河道掘削で生じた大量の土砂を有効活用し、堤防上部の幅を現在の5倍から7倍程度に広げる。堤防の上部は市道で、災害時の緊急車両の通行や避難路に活用する。国土交通省高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所によると、6月上旬に地区ごとの説明会を実施。堤防の形状などについて地元と協議を重ね、合意を得た上で、まずは用地の取得が不要な箇所から工事に入る。21年度末、高梁、真谷川が

の完了を目指している。

説明会は国、県、市の行政関係者が一堂に会し、同町地区での緊急治水対策プロジェクトの全容を伝える目的で開き、地元住民約110人が出席した。行政側は堤防決壊箇所の復旧の進捗率も報告。国管理の小田川が80%、県管理の3河川未

令和元年5月19日
山陽新聞朝刊紙面

60〜70%で、いずれも6月中旬の出水期までに完了する見通しを示した。市は同町地区の復興計画（2019〜23年度）を説明した。住民からは、梅雨期を前に「小田川の堤防を高くしてほしい」「合

流点付け替えが完了するまでは安心して暮らせない」といった不安を訴える声が相次いだ。同事務所の榎谷有吾所長は「抜本的な対策にはならないが、河道を掘削して水位を下げるなど、できることはやっていく」と理解を求めた。（重成啓子）

逃げ遅れた人の最終手段 市「浸水区域外脱出を」

倉敷市真備町地区で指定された「浸水時緊急避難場所」の5小中高はいずれも、ハザードマップで想定する浸水区域内にある。市は「逃げ遅れた人が『最終手段』として避難する場所であり、浸水想定区域外への脱出を一番に考えてほしい」と訴える。

5カ所ではライフラインも期待できない。市防災推進課によると、川辺小、真備中は電気、水道が未復旧。校舎での授業が再開している残り3カ所は、現状では利用できるが、災害で水没すると使えなくなる可能性が高いという。

同課によると5カ所は、国土地理院の地図



に載る災害対策基本法の「指定緊急避難場所」とは異なり、市独自の基準で設定した。理由について、森茂治課長は「浸水の危険がある場所なので本来は避難場所にしたくなかったが、周囲に高台がないエリアなので、万が一を考えて設けた」と言う。（石井聡）

令和元年5月31日 山陽新聞朝刊紙面

復旧きょうにも完了

かさ上げや拡張継続

西日本

豪座

「住民の安心安全を第一に、川が増水しやすい出水期までに工事を終えるのが目標だった」と国土交通省高梁

●は復旧箇所、写真はいずれも13日撮影



続き、決断箇所では小田川堤防の高さに合わせて土の改良復旧工事を進める。完了時期は、小田川が9月上旬、高

全体の緊急治水対策の範囲は、3支流とも小田川合流点から上流

23年度の完了を目標として、河川改修工事を行っていく。(重成啓子)

37*、高尾川が0・78
 *、真谷川が1・21

馬川が7月下旬、真谷川は6月下旬の見通

間では、未次川が1・

小田川付け替え着工式

倉敷市真備町地区を流れる小田川と高梁川の合流点を約4.6km下流に付け替える国の工事で、16日、柳井原小（同市船穂町柳井原）で行われた着工式。小田川や支流の決壊で多くの命が失われた西日本豪雨の発生か

ら間もなく1年。国は川の水位を下げる工事の意義を強調し、真備町地区の住民は「一日も早い完成を」と再発防止に願いを託した。（平田桂三、三宅信行）

＝1面関連

一日も早い完成を



工事の早期完成を期して行われた小田川合流点付け替え工事の着工式

「治水の安全性が樹谷有吾所長が、式大幅に向上する」。高のあいさつで力を入れた。小田川緊急治めた。今回の工事は、水対策河川事務所の合流点を下流に付け

真備住民 安全性向上に期待



豪雨 西日本

替えることで小田川の流れをスムーズにし、水位を下げるという。自らも被災し、自宅の改修を続ける川辺地区まわりの推進協議会の横溝哲会長（83）は「同じ災害が起きないか不安を抱える人は今も少なくない。万全の工事こそが安心

う。

面積の約3割が水没し、51人が直接死した真備町地区の住民も早期の完成を求めた。自らも被災し、

につながる」と期待すた。国などと協議を進め

小田川を巡っては、国が1968年、治水

機能を高める柳井原堰の建設計画を発表。曲

折を経て堰は中止さ

れ、昨年9月には20

3年度の完成を目指

す合流点付け替え工

事の実施が決まってい

話した。要望してい

きた柳井原小田川放

流対策協議会の内藤

委員長（76）は「よう

やくこの日を迎えられ

自然環境の保全な

ど地元の発展につな

る取り組みも引き続

き要望していきた」と

話した。

柳井原堰建設と小田川合流点付け替え事業をめぐる経過	1968年	旧建設省が柳井原堰建設計画を発表
	72年	実施計画の調査に着手したが、地元の反対などで中断、膠着（こうちゃく）状態に
	95年	船穂町は国、岡山県が「同町総合振興計画」に協力することを条件に建設に同意
	97年	国交省が柳井原堰の事業に着手
	2002年	（6月）県が柳井原堰建設を中止し、小田川の治水対策を中心に進めるよう国交省に求める方針表明（10月）県が国交省中国地方整備局に柳井原堰の建設中止を求める要望書提出（11月）同整備局事業評価監視委員会が柳井原堰の建設中止を承認
	10年	同整備局が柳井原堰に替わる貯水池のバイパス化などを盛り込んだ「高梁川水系整備計画」をまとめる
	14年	国交省が貯水池バイパス化による小田川合流点の付け替え工事を予算化し事業着手
	19年	倉敷市で小田川合流点の付け替え工事着工式

倉敷市は6日、西日本豪雨の犠牲者を追悼し、災害の記憶を後世に伝える石碑を市真備支所（同市真備町箭田）の玄関前に建

立した。同町地区で被災した石材業者3社が、市から委託を受けて製造を担った。（1面関連）



西日本豪雨の犠牲者を追悼し、災害の記憶を伝える石碑の除幕式。倉敷市真備町箭田（市庁舎前）

「後世へ」記憶刻む

西日本豪雨1年

倉敷市 真備支所に石碑建立

倉敷市「平成30年7月豪雨災害の碑」全文
平成三十（二〇一八）年七月五日から七日にかけ、西日本を中心に記録的な大雨となった。倉敷市では、二日間連続で年間降水量の約三割の雨が降り、六日には初となる大雨特別警報が発表された。その後の、住民のたゆまぬ努力と、天皇皇后両陛下のご訪問、国県自治体や各団体をはじめ七万五千名を超えるボランティアなど全国からの支援により、復興に向けて歩みを進めている。災害から一年にあたり、おこたまりになられた方々を追悼するとともに、災害の記憶を後世に伝え、復興への誓いを新たにし、災害に強いまちづくりにつぎつぎと邁進すべく、ここに碑を建立する。

倉敷市「平成30年7月豪雨災害の碑」全文

石碑（縦1・3メートル、横2・8メートル、奥行き0・7メートル、重さ5・5トン）は、香川県特産の庵治石製。表側に「平成30年7月豪雨災害の碑」の文字を刻んでいる。裏側には、記録的な豪雨で真備町地区の約3割に当たる約1200軒が水没、災害関連死を含め60人超が亡くなったことを記し「市

はじまって以来の未曾有の大災害」と表現。結びに「復興への誓いを新たにし、災害に強いまちづくり邁進」との決意を示した。石碑を手掛けた蒔田石材店（真備町箭田）の蒔田典幸代表（49）＝同所＝は「10年後の人たちにも西日本豪雨のつらい記憶が伝わるよう、業者一同で思いを込めて碑を造った。災害を教訓とすれば、いざというときに住民同士で助け合えるような、強固なコミュニティを持った町にしたい」と話した。

同日行われた市追悼式に続いて石碑の除幕式があ

り、伊東香織市長や被災者代表らが出席した。

（石井聡）

復興へ歩み進める

西日本豪雨1年

遺族ら鎮魂の祈り

倉敷、総社で追悼式

岡山、広島など14府県で29人が亡くなり、平成最後の瞬間災害となった西日本豪雨は8日、発生から1年を迎えた。被災地ではそれぞれ市主催の追悼式が営まれ、遺族や住民らが黙とう、鎮魂の祈りに臨まれた。倉敷市の式典で遺族代表は「復興に向かって歩みを進めていく」と決意を表明した。

岡山県内でも多い29人が犠牲となった倉敷市の追悼式は、約300人が参加した。町内では、約20人が参加した。岡山県内でも多い29人が犠牲となった倉敷市の追悼式は、約300人が参加した。町内では、約20人が参加した。



西日本豪雨から1年を迎え、倉敷市の追悼式で黙とうする参加者。午前10時50分（右上）

長は倉敷で「住民は復興への強い思いで努力を続け、交え合いと絆をもって歩んで来た。また全未へつなぐため前を歩んでいく」と述べた。

岡田市長で被災し、母さん（当時70）を失った長男のさん（51）

長は倉敷で「住民は復興への強い思いで努力を続け、交え合いと絆をもって歩んで来た。また全未へつなぐため前を歩んでいく」と述べた。

岡田市長で被災し、母さん（当時70）を失った長男のさん（51）

が遺族を代表して「母からは命の大切さ、万が一の備えをしなければならぬことを教わった」とあいさつ。住民代表で追悼式に参列した倉敷市議会議員は「被災者一人ひとりが復興を願い、一歩一歩進んでいく」と述べた。

岡田市長は「被災者一人ひとりが復興を願い、一歩一歩進んでいく」と述べた。

岡山県内でも多い29人が犠牲となった倉敷市の追悼式は、約300人が参加した。町内では、約20人が参加した。